

九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中村哲著述アーカイブ
Nakamura Tetsu Digital Archive

空爆と「復興」：アフガン最前線報告

中村，哲、ペシャワール会 編著

アフガン最前線報告（2001. 9. 11～2003. 12. 31）
（1/3、2001年）

<http://hdl.handle.net/2324/4772331>

出版情報：空爆と「復興」：アフガン最前線報告，pp. 229-328，2004-05. 石風社
バージョン：初版 2004-05-31

権利関係：©Tetsu Nakamura & Peshawar-kai Printed in Japan 2004

石風社より許諾を得て本文を公開しています。

公開しているPDFの印刷、複製および許可のない二次利用はおやめください。



KYUSHU UNIVERSITY

アフガン最前線報告 (2001・9・11
} 2003・12・31)

2001年

米国テロ事件を機にペシャワール会は、孤立するアフガン国内避難民への緊急支援として大規模な食糧援助（小麦粉・食用油）を開始した。空爆下の首都カーブルへの輸送は困難を極めたが、現地アフガン人を中心としたスタッフによって果敢に継続された。しかし一月二三日、タリバン政権の崩壊によって情勢は急変した――。

九月二一日（火）

中村哲先生。

今、CNNニュースでカーブルが巡航ミサイルで攻撃されたと報じています。アメリカは内戦として関与を否定しています。また国内のニュースではニューヨークとワシントンの世界貿易センターとペンタゴンで爆破（乗っ取られた飛行機がつつこんだ）と報じています。大きな規模の爆発

です。いずれが先かは分かりませんが、大変危険な状態になっていることは確かです。この後の情報はこちらからも入れます。

戦争状態になることは十分予想されることです。カーブルの診療所に被害は起きていないでしょうか。ジャララバードの蓮岡さん、目黒さんら日本人ワーカーの安全を考えると、一時引き上げることを含めてご検討ください。先生が懸念されていたもつとも悪い筋書きで経過している可能性があります。生き延びて初めて、何かができると考え

ます。また連絡いたします。

(ベシャワール会事務局長・村上優)

*その後事務局と中村医師の電話による話し合いで、中村医師は再度アフガニスタンに入り、活動の継続を現地スタッフに伝えた上で、日本人スタッフはパキスタン側ベシャワール基地病院に移るようになった。

九月一三日(木)

ジャララバードからの報告。みなさま、お疲れさまです。

世界中が米国に対するテロ事件で蜂の巣をつついたようになっていますが、先ず冷静であることをお願いします。日本で報道される現地のニュースや実情は、ほとんど限られた情報源だからです。本日午後一時、カイバル峠からジャララバードへ入り、職員の一部をカーブルに送りました。善後策を検討するためです。四日前(九日)、私がカーブルに滞在中、市内で爆破事件があったよう

ですが、市民は平静でした。北部から来た住民の話では、マザリシャリフなど、殆どの地域もタリバン政権のコントロール下にあり、平静だそうです。

私が去った直後、例のマスード暗殺事件が起き、報復に翌日一〇日、ロケット砲攻撃を含めた大規模な戦闘がカーブル北部でありました。「カーブルがミサイル攻撃を受けた」というのは、カーブル中心部から二キロメートル離れた飛行場が攻撃されたもので、マスード一派ら北部同盟によるものです。

以下現在の経過を要約します。

(1) 現在アフガニスタン内にいる日本人ワーカーおよびそのベシャワールへの引き上げ予定

①中村哲

九月一四日……大まかな今後の方針を地元職員に徹底。

九月一七日……一時帰国。

② 蓮岡修

九月一日……事務所をアチン郡に移転指揮。

一〇月下旬……一時帰国。

③ 日黒^{すまむ}丞

九月一日……蓮岡を助けて共にペシャワールへ移る。

九月下旬……一時帰国。

④ 石田恵慈

九月一四日……任務終了、帰任せず。

⑤ 白石・木村 任務終了、帰任せず。

(2) 現地(アフガニスタン滞在) PMS 職員
の予定

① ペシャワールに家族をもつアフガン人職員
……原則として三日以内に PMS 病院に帰任。
カーブルまたはジャララバードに家族をもつ
アフガン人職員…留まるか否か本人の意思に
任せる。

② パキスタン国籍職員……九月一五日までに帰
ペシャワール。九月一三日現在、シア医師が
カーブル滞在、今後の方針を説明して九月一

五日に帰ペシャワール。

(3) 当面のプロジェクト

予定情勢を見ながら、ペシャワール側から
指示を出して継続。原則として撤退はあり得
ない。定期的に通信を絶やさず。空爆は主と
して主要都市や軍事施設が対象となる公算が
大きいので、田舎や山岳地帯の診療所、多数
の水計画作業地はできる限り継続する。

水計画は攻撃対象にならぬと思えるアチン
郡に本部を移して継続。ソルフロッド郡は水
源の水位が急激に下がり始めているので、道
具を住民に配り、自衛手段で掘削をさせる。
各地には既に経験者が多数いるので可能であ
る。グラエヌール渓谷は PMS 診療所を中心
に、これまでの計画、灌漑用水確保を主眼に
置き、自給自足態勢をとらせる。

東部の三つの診療所、グラエヌール診療所、
ドラエビーチ診療所、ヌーリスタン(ワマ)
診療所は、十分な薬品をグラエヌール渓谷に
備蓄し、継続。道路網が遮断されるときは、

ミタイ峠より人員交代。カーブル診療所は人員の消耗がない限り、続行。

(4) 中期見通しと対応

東部の避難民の流れは、カーブルからジャラバード、ペシャワールへと殺到する。ジャラバード市内では窮地に陥った流民が略奪、匪賊化^{ひぞく}する可能性あり。連絡網が寸断されてしばらくあらゆる活動が一時休止を余儀なくされる。おおざっぱな推定では、PMSのアフガン・プロジェクト継続は数ヶ月が限度と見る。しかし、空爆後の安全が確認されれば、直ちに活動を開始できるようにペシャワールで待機しておく。

当然PMS病院がアフガン・プロジェクトの基地となり続けるが、アフガニスタンの全面崩壊となれば、ペシャワールの混乱は絶対^{ぜったい}に不可避である。その時期と程度は現在のところ皆目予想がつかない。ただ、以下の経過で凡その見通しができってくるものと思われる。

1. 早魃^{かんばつ}の程度と期間

2. 空爆による被災程度と避難民の数
3. パキスタン国内の反米運動の高まりと政府の対応

4. 周辺諸国と米国・国連組織の動向
5. 国際的な反戦、平和運動の高まり、厭戦^{えんせん}気分

6. 国際的なイスラム民衆の反応
7. 日本側ペシャワール会の補給の難易
8. 日本外務省、アフガン政府、パキスタン政府による邦人在留の規制

9. ドルを基礎とする世界金融態勢の崩壊
- しかし、以上の要因は余りに複雑かつ大規模であるから、つかみどころがない。相当の見識と覚悟が必要である。「ペシャワール撤退」は、ペシャワール会の活動の終焉である。
- (5) ペシャワール会全面撤退時の対応

我々の撤退とは、むきだしの暴力によるイスラム世界と欧米諸国の激突が日常化する時期と一致すると思われる。堪え難いが、今後たとい一時の安定があっても、これは時間の

問題であって、早晚その日が来ることは覚悟せねばならない。対米テロとアフガニスタン制裁は、世界秩序終局の始まりである。わがペシャワール会としては、今後展開するであろう現実を素直に認め、行き詰まりが予測されれば、PMS現地職員の生活保障を最大限行って、その恩義に報い、紳士的に現地を去る。しかし、それまでは非暴力平和主義をつらぬき、日本・イスラム民衆の懸け橋たることを自認し、以て平和憲法を戴く日本国民としての節を守る。

追伸、なお、以上の情勢は時間毎に変化していますので、長期見通しを今は断定的に述べず、対外的には、「できることをやる」という以外は述べない方がよいかと思えます。(ペシャワール会現地代表・中村哲。以下「中村」)

私達ワーカーのご心配をいただいて、又アフガ

ン情報をありがとうございます。

カーブルや山岳地のクリニック、井戸掘りチームもまだアフガニスタン内にいますが皆元気でいつものようにしています。今日、病院の会議の後で中村医師、ジア副院長ともう一人のアフガンドクターが、安全対策をアレンジする為アフガン入りました。会議では、希望する現地人スタッフと日本人は全員ペシャワールへ帰って来ることになっています。希望する人というのは、家族がアフガン内にいる人達は自国をぎりぎりまで出ないだろうとの予想で彼らの判断に任せる事になったのです。日本の事務局から送られてきたアフガン情報に書いてありました「アフガン国内に一〇人前後の日本人がいる」の中にはペシャワール会の中村先生を含む六名のメンバーが入っています！ 昨日から日本大使館から外務省が決定した事などを連絡してくれています。また連絡します。

(PMS看護部長・藤田千代子。以下「藤田」)

九月一四日（金）

おはようございます。本日早朝にジャラバードより連絡があり、今日午前七時に中村医師を初め四人がペシャワールへ帰って来るとの事でした。国境は車では通過できなくなっており、こちらからパキスタン側国境に車を送りました。蓮岡さんと目黒さん（編註：ともに現地水源確保計画担当）は明日までに井戸掘りを残る現地の人たちで進められるようにアレンジした後、明日までにはペシャワールへ帰ってくる予定になりました。中村医師は一時前には病院に着かれるので、それから報告がある予定です。また連絡を致します。

（藤田）

九月一五日（土）

ペシャワールから報告。

（1）蓮岡・目黒両名は一六時無事ペシャワール

に到着。これにて、日本人ワーカー全員ペシャワールにあり。

（2）ペシャワール会 PMS 傘下の診療所は全て平常どおりに運営。戦時下の準備をしたジャ医師、本日一時にカーブルを出て一五時到着。報告によれば、学校、病院、官庁は全て正常に勤務が行われ、市民に動揺はない。タリバン政府の軍隊が北部同盟の同時攻撃に備えて、北部に布陣しているのみ。PMS の五ヶ所のカーブル診療所が負傷者の治療にそなえて、外傷手当てに必要な包帯、消毒薬などを増やした。攻撃目標と思われる官庁街にある PMS カーブル事務所は、車輜三台、一ヶ月分の薬品を備蓄し、有事の際は速やかに各診療所に配布できるように用意。東部三診療所（グラエヌール、グラエピーチ、ワマ）も平常どおり。車輜一台と三週間分の燃料と共に、十分な医薬品の備蓄をジャラバード市内からグラエヌール渓谷に移動完了。

（3）通信網が寸断されるまでは、カーブル、

ジャララバード共に、定期連絡を欠かさず、指示を与えられる状態。

(4) 日本からの問い合わせが殺到したが、全てもものしい様子を聞き出すごとし。しかし、ペシャワール、ジャララバード、カーブル、何れも質問の意に反して、異常なほどの平静さは米国と対照的。「小人窮すれば斯に濫す」とは米国である。既に中村個人は反米主義者の烙印を押されているが、米軍が進駐してくるときは、PMSは非政治団体とはみなされぬ可能性が強い。

(5) ペシャワールの決定的な危険性を断定するには時期尚早。最低数ヶ月の余裕はあると見る。定期連絡を欠かさぬようにして、引き上げが適切と見れば、財産を処理して、躊躇なく全日本人を帰国させる。残存処理のための人員、その他は変化を注意深く見て決定以上。今後の知らせに注意されたし。(中村)

アフガニスタンから蓮岡さん、目黒さんが帰って来てペシャワールは一段とにぎやかになりました。白石さんと「風の学校」から派遣の石田さんは明日の中村医師と同じ便で予定通りの帰国となりました。石田さんには、中村医師が彼の帰国を惜しむくらいにたくさんの事を、井戸掘り部隊に教えて頂いたようです。

カーブルからジア副院長が帰って来たので報告がありました。カーブルで働いているスタッフは家族を安全なところに移す為の時間と、アメリカの攻撃を受けた後に人がたくさん来るだろうから外科的手当の為の器具を要求して、五つの臨時クリニクの現地スタッフ全員が業務を続けたいと希望したそうです。カーブルとはこれから連絡が続けます。

イクラムラ事務長が私達に今日が中村医師の誕生日だと思ひ出させてくれ、もうすでに小さな花束を準備してありました。

(藤田)

九月一九日（水）

ペシャワール会、全ての会員へ。

今回の「報復」は、いかなる点から見ても野蛮で理性を欠く戦争である。武力を頼み、世界の強国がよってたかつて弱小のアフガン人を葬り去ろうとしている。諸君、これがかれらの本性なのだ。自分の身は針でつつかれても飛び上がるが、人の身は槍で突き殺しても平気なのである。神を信ずる者なら、こんなことはできない。これは歴史に名をとどめるホロコーストとして記憶され、汚名を残すにちがいない。あのイランでさえ、中立を宣言し、「非道だ」と堂々と述べている。しかるに日本政府は、世界に冠たる平和憲法をねじまげ、またも卑屈な対米協調を積極的に推進しようとしている。「国際社会との協調」とは、殺人の仲間入りである。この政策は違法かつテロリストに万倍する非人道的な行為である。これは更に巨大な、果てしない報復に巻き込まれることを意味する。

わずかの「国際的地位」と、わずかの経済的利益と奢侈のために日本国民を滅亡の道に誘いこむものである。だまされてはいけない。他人の復讐の手伝いで災いを被るなど、まっぴらである。日本国憲法の条文は明快である。紛争解決の手段として、戦争Ⅱ暴力による解決を自分がないだけでなく、その協力もしないことである。だが、犠牲のない平和はない。怪我はしたくないがそれによる孤立や経済不振をも避けるという虫の良い話はないのだ。奢侈を捨て、「経済不況」を忍んでも、大量殺人に加わるよりはましである。利によって行えば怨み多し。日本は守るべき利が多くなりすぎて、テロの不安におびえている。真の平和は孤立への道かも知れぬ。しかし、それは名誉ある孤立である。ペシャワール会ⅡPMSは、建設的な努力を戦時下でも継続し、身を以って平和の尊さを証するものである。心ある有志諸君の、勇気ある積極的行動を期待する。

（中村）

九月二三日（日）

お疲れ様です。まず先ほど六時頃、スタッフのハンザマンより入った情報を報告します。

——今日一時頃、ジャラバード市内で開戦を励ます大パレードが開かれた。このパレードは「ムザヘラー・エセタープ」と言われており、大きな戦争を開始する前に行う軍事的なデモンストレーションだという。この規模のものはソ連との開戦時以来。パレードには伝統的にモマン地方とシノアール地方の踊りと歌の団体が中心になり、その他の地方から集まったそれぞれの民族衣裳に身を包んだ楽団約三千人が、およそ一二時半迄街を歌と踊りで練り歩き、群衆はアメリカの旗を焼いたりしてタリバンと共に最後までアメリカと戦う事を誓った。歌と踊りが禁止されているアフガニスタンだが、この日は特別で、タリバンは道に並び、民衆に対して武力による抗戦を呼びかけた。この日はパレードだけで住民に対する武器の配給

などはなかった。これによって徹底抗戦が住民一致の意見となり、皆は英国、ソ連、米国と続くジハード（聖戦）の開始を祝った。——

ハイルラーよりの報告。昨日夜にペシャワール到着。その経緯の説明。

——国境は状況が悪く完全に閉まっていたので、そこから五〇キロ離れた場所より山を越えて部族地域に入国した。国境からその地点まで車で三時間。運賃は一人二〇〇ルピー。山越えは男の足で二時間。約一〇〇台の車がそこに行き来しており運賃は一人当たり二〇〇ルピー。バンに一五人が詰め込まれた。山への道は長蛇の列で、ほとんどが家族連れのため女性子供が多く、女性はチャドルを被ったまま山道を行くので大変危険で五分おきに休みながら進んでいたという。また子供は恐怖で泣き叫んでいたところで泣き声がしていたということ。国境の向こうは部族地域でそこから乗合トラック五〇ルピーに乗り、乗り換えて二〇ルピー、再度乗り換えて二〇ルピーを払いやっとペシャワール近郊に到着したとのこと。

ジャラバード市内はほとんど人が歩いていなかった。店はほとんどが閉まっており、いくつかの店では今でも品物を市街へ運ぶのに忙しい。このレンタカー代金はこの数日で跳ね上がった。

タリバン兵士も要所で塹壕を掘るのに忙しい。最近市北側の山に塹壕と砲台が作られた。これは北部同盟の侵攻に備えるためだという。また要塞はスピンガル山脈の各地に作られているというのと。

住民は親族を頼って農村部に避難しているが、農村部でも早魃^{かんばつ}による不作のために十分な食糧が用意できず、近日中に深刻な食糧危機に直面する可能性も出てきているとの事。同じように水不足も深刻だが、住民達は口々に「アラアの御心のままに」と唱えているとのこと。国境周辺は臨戦態勢で山には塹壕が張り巡らされて、攻撃開始を待っているとの事。皆士気が高く英国、ソ連を引き合いに出して徹底抗戦を叫んでいるとのこと。

（水源確保事業担当・蓮岡修。以下「蓮岡」）

九月二四日（月）

昨日、大使館より電話がありベシワールのバザールの様子を聞かれました。丁度、昼にバザールの様子をみて来たところでした。主なバザールに行きましたがいつもと変わりはなくのんびりしているように見えました。日本人だけ三人車に乗り、私は顔を隠さずにいましたが大使館が心配して下さっているような危害を受ける事はありませんでした。しかし新聞では数ヶ所でデモがあったと書いてあります。私以外の日本人達は結構バザールに行ったりしていますが運が良いのでしよう、まだ一度もそういう場面に会った事がありません。私は（以前からの念願がかない）今病院のゲストルームに住んでいます、病院の周りは昼夜静かです。

私は、アフガニスタン内診療所のスタッフや薬の準備などをどうするかでジア副院長と相談しながら、急いで帰国の支度をしているところです。

昨日などはジア副院長が突然、「私がカーブルへ行ってくる」等と言いましたので、「ジア先生がもしここに帰って来れなくなったら、病院のドクター達のまとまりがつかなくなるだろう」と言って、イクラムラ事務長と引き止めました。

病院は外来数、入院数の増減の変化は今の所ありません。ペシャワールでも物価が上がりつつあるために何人かのスタッフがサラリーを早めに貰いたいと希望したため、経理のスタッフは昨日は日曜返上で頑張りました。カーブル臨時診療所の方からも同じリクエストがあり、こちらから渡しに行けないのでドクターの知り合いの人を介して為替のシステムを使って既に支払は済ませました。九月一三日、中村医師がこちらから帰国される前に全スタッフに、アフガニ（アフガン人）、パキスタニと言っている時ではない、私達は患者さんのために集まって仕事をしているのだからいつものようにしていなさい、特にこれからはどういう小さな事でも国籍の事で揉め事を起こさないように、厳しく話をされました。それにもかかわら

ず「アメリカで起きた爆破事件でパキスタンはたいへんな利益を得た、それに比べて私達の国アフガニスタンは食べる物にも困っているのにその上にまた……」「パキスタンにドルがたくさん来た」と、いきり立って、軽蔑したようにして話すアフガン人たちがいます。中村医師がもしここにいられたら即刻クビになっていた事でしよう。今にも分裂が起こるのではないかと危ぶんでいます。このことを除けば病院内は今のところいつものように流れています。さて私は予定通り、二七日に帰国します。

今のこの状況の中で、私達は何処にも逃げるところがないから神様のご意志にお任せすると言うスタッフを残してここを去るのは身を切られるようです。女医さんもいます。長い間一緒に働いてきたスタッフには奥さんやシスター達もいます。帰国についてなかなかスタッフに話せないでいます。

近況報告のつもりでしたが少し感情的になってしまいました。

（藤田）

九月二七日（木）

村上事務局長。

実は、今夜のフライトで帰国の予定でしたが無理がたたりダウンしてしまいました。

それでもまだパッキングも出来ていなので三〇日のフライトに変更しました。ジア副院長とイクラムラ事務長からの情報を注意深く聞いています。

そろそろアフガン内診療所のスタッフ交代の時期になりましたので昨日イクラムラ事務長がトルハム国境に観察に行きました。

彼の報告によると、アフガン人は入国は出来るが出国はどんな許可書や身分証明書を持っていても出来ないそうです。パスポートを持っていてもです。アフガン内にスタッフと薬品を送りたいと話すと、行けるけれどもスタッフはパキスタンへは帰れないし、車両も戻っては来ないだろうと言われたそうです。アフガニスタンから果物を運ぶトラックとパキスタンから小麦粉その他食糧を運

ぶトラックのみ行き来していたそうです。

昨日の会議でアフガン内の診療所の様子を見てくる事が決まり、今日午前中にジア副院長とシャラフ医師が発発しました。カーブルを見た後ガラエヌール、ガラエピーチ、ワマに行く予定です。

ちょうど彼等の出発前にガラエピーチ診療所の医師からの手紙をスタッフの一人がバジヨワールの山を越えてパキスタン側に入国して届けに帰ってきました。

「診療所は平常どおりに活動をしている。出来るなら次のチームを送って欲しい、ワマ診療所のスタッフの一人が病気になりガラエピーチ診療所のスタッフと交代させた」などと書いてありました。薬品はアフガン内に来月分までストックしてあるのでこの国境から交代要員を送れるかを探すのも今日アフガンへ入った二人のドクターの任務です。

日本からのニュースでパキスタンのある地区の公的病院ではアフガン難民の患者が押しかけて、医師や薬品が不足してきたと言っていました。今

のところ私達の病院はいつもと変わりありませんが最近朝夕たいへん冷え込んでいていつもより早い冬を迎えそうな感じです。

ジャロザイ難民キャンプや他のキャンプの一部はいまだにテント生活者がかなりの数です。厳しいですね。
(藤田)

一〇月一日(月)

予定通りに帰国の途につかなかった事をお詫びしなければなりません。最後の報告をした後、アフガン内診療所のスタッフ交代のために会議を持ちました。いろいろな情報やスタッフの意見等を聞き、いつものように一日に交代要員を送る事に決めました。先ほどその人たちを見送った所です。医師三名、ナース三名、検査技師一名にコーディネーターの薬剤師一名計八名です。

いろいろな情報を知っているはずの交代要員は、通常通りにスタッフの交代することを発表したときも、もし攻撃があったら外科器具やガーゼ、薬

品が多量にいるがどうするかとの質問があったのみで、出発の今日も何の迷いも見せず、淡々と出発の準備を整え、アフガニスタンへ入る事について誰一人何も言いませんでした。私は彼達を見送りがら本当にこれで良かったのだろうかと言う疑問を打ち消せずにいました。

たいへん心配をお掛けして本当に申し訳なく思いますが、私は彼らをアフガニスタンへ送り自分だけが安全な所へと行くことが出来ません。女性としてここにいたがために何かが起こったとしてもそれは覚悟の上です。どうかこちらでこれから増えるであろう避難民達の診療の準備をさせて下さい。自分でも不思議なくらい落ち着いています。中村先生が今日こちらにお見えになるとのことです。きっとお叱りを受ける事になりそうですが解っていただける事を願っています。
(藤田)

一〇月八日(月)

*一〇月七日空爆開始

とうとう始まってしまいました。悲しい事です。

昨日夕方、中村医師と中山さん（編註・現地会計担当）をイスラマバード空港に送ってからペシャワールへ帰り着いたのが一時半丁度でした。イスラマバードからペシャワールの間特に変った事はなく、スタッフハウスに帰って蓮岡さん達に空爆の事を聞いて驚きました。ここでは夜中一二時ごろあたりから三〇分くらい「オマール、ゼンダバード（万歳）。オサマ、ゼンダバード（万歳）」と叫んでいるのが聞こえました。今日は病院の周りはいつもと変わりません。目黒さん、大月さん、病院のスタッフがそれぞれ別行動でバザールに用があつて行きましたが、いつもと変わらなかったと話しています。

午後二時半、カーブルの事務職員から以下の連絡がありました。

——朝八時から電話連絡をするのにトライしていたがなかなか順番がまわって来ずに今になった。昨夜のカーブル爆撃で二〇人が死亡。今日はカーブル市内の殆どのバザールの店は開いている。市民はやや動揺はしているが米国の攻撃目標は軍隊

関係、ビンラディンに関係するところだと予想していたので今は静かに生活をしている。ペシャワール会の診療所もいつものように活動している。今日は爆撃による怪我人は来院していない。爆撃が朝方の四時半まで続いたが、診療所のスタッフは全員八時には出勤して来た。パキスタンのニュースで取り上げていたような食糧（編註・米軍による投下物資）はカーブル、ジャラバードには降ってはこなかった。——

一日延びましたが、明日ジア副院長とハビーブは、ガーゼや包帯を積み込みカーブルへ行きます。明日、午前八時にカーブルから連絡が来る事になっています。

（藤田）

三時現在の状況です。病院の方は混乱もなく平常通りの状態でした。用事があったので街中を見て来ましたが、この数日と変わりがありませんでした。ただ、外国人ジャーナリストを数回見かけました。ムシャラフ大統領の演説で国境を閉じる

とあり、今日出発予定だったアフガンへのチームは二時の時点では病院にいました。状況を確認している所であり、まだ未定のままでした。昨夜遅くスタツフハウスの近くのモスクから「ウサマ、ゼンダバード（万歳）」という喚声が何回も聞こえて来ました。かなりの人が集まっていたようですが、深夜までには静かになりました。他には目立った変化はありません。報道のほうが騒ぎすぎているように感じます。現在は本当に平静ですので安心して下さい。

（水源確保事業担当・目黒丞。以下「目黒」）

一〇月九日（火）

連絡が遅れて申し訳ありません。昨夜はみんなに疲れが見えたので早めに寝る事にしました。

ペシャワールでは昼間から大きな変化はありません。昨日五時半のアフガンからの報告では、最初の攻撃の後に多くの市民がジャラバードから避難し、残っているのは三割程だそうです。開い

ている店は半分ほどで値段は変わらずとの事です。ジャラバード市内でのタリバン配置が強化されたとの事。四時にも飛行機が来たが空爆はなかったそうです。それまでの空爆の状況も確認できてないそうですが、民家への被害は恐らくないらしいとの事です。現地ではザヒル・シャー元アフガン国王への期待かもしれないのですが、通貨のアフガニーが高騰しているそうです。以前は一ラック・アフガニー（一〇万アフガニー）が九〇ルピーだったのですが、現在は一ラックアフガニーが一九〇から二三〇ルピーだそうです。トルハムの国境へ集まっていた人々は空爆後には少なくなってきたとの事です。

ニュース等を見ていてわからない点がいくつかあったのですが、航空機からの食糧の投下というのはアフガンのどの地域なのでしょう。ペシャワールのデモはどの辺りだったのでしょうか。自衛隊の邦人救出というのはもしかして我々も含んでいるのでしょうか。色々派手なニュースが入ってきますが首をかしげる時もあります。深夜に私

や連岡の実家にも取材の電話が入ったそうです。こちらでも報道に躍らされる事のないように気をつけるようにします。
(目黒)

中村先生(一時帰国中)。

今朝、八時にカーブルから電話が入りました。昨夜のアメリカの攻撃は前日よりも激しかったそうです。

カーブル市民は昨日と変わりなく生活をしているそうです。PMSの診療所も通常どおりです。

という訳でこの知らせを受けてシア副院長と三人のスタッフが一時半に出発をしました。残念ながらドクター側から誰もシア副院長の助手として同行する人がいませんでしたので(シャラフ医師が一人希望しましたが病院の管理のために残って貰いました)、これからの計画を説明したうえで希望をとり看護部からメラージュ、検査室からヤールウツラが行きました。国境のトルハムまでイクラムラ事務長も同行し、彼の取り計らいでパ

キスタン側の国境で勤務している軍人、テヘシルダール(何と訳せば良いのか分かりません)達ともたいへん友好的に通過出来たようです。

トルハムでは現在病人のみにパキスタン入国許可が出ていますが、シア副院長達は公的な手続きを国境で済ませ、その責任者が「帰日も問題はないから安心するように」と言ってくれたそうです。チームは水計画のスタッフと落ち合い今日はガラエヌールに泊まり明日カーブルへ向かう予定です。

(藤田)

お疲れ様です。本日の昼前にカーブル飢餓対策計画の第一陣が発発しました。シア副院長を筆頭に合計四名です。トルハムの国境まで同行したイクラムラ事務長の話では、アフガン側の国境付近にはほとんど人がいなかったとの事です。水計画のメンバーがトルハムまで迎えに来ており、無事に入国できたそうです。その他の業務は問題なく続いております。

(目黒)

一〇月二一日（木）

アフガン情勢は予断を許さない。いわゆる国際社会は大規模な難民支援を計画している。だが、それは本当に情勢を読んだ結果なのか、疑問がある。

一〇月現在、カーブル現政権の崩壊を前提として、各国団体・国連機関が続々とパキスタン側のペシャワールに集結している。しかし、皆が期待する難民の姿は殆どない。これはアフガン内の実情が北部の一部を除いて知られていないからである。

意外に思われるが、この大旱魃と戦争の危機の中で、実はカーブルなど大都市の市民生活は秩序正しく、整然と行われている。二〇〇一年一月の国連制裁以来、生活はさらに窮迫し、九月一日の多発テロ事件と米国の報復声明で数日は動揺したものの、逃げ場のない人々は半ば諦めて死を待つに等しい。

それでも、彼らは動こうとしない。人々は過去二二年間の内戦で多くの苦汁を味わってきた。かつてパキスタンで行われた難民援助の実態を知る者は、誰一人故郷を離れようとしないう。カーブル市内の至るところに破壊された建物の残骸は、過去の愚かな血の晚餐を生々しくよみがえらせる。

現カーブル政権（タリバン）のもたらした秩序と市民生活の安定は、多くの人々にとって、たとえ極貧にあっても換えがたいものであった。そして、それは今でもそうである。アフガニスタンの実像は正しく伝えられていない。人々は北部の軍事勢力と米国が協同して昔の混乱と破壊の悪夢を再現すると恐れている。しかし、厳冬を間近に、餓死の不安が広がっている。その上、国際社会はまるで彼らの「難民化」を期待しているかのようである。

親切や助力は当人たちのためにするものであって、政治や商売の道具ではない。いわんや、そのために難民を作り出すのは非人道的だと言わざる

を得ない。期待されるWFP（世界食糧計画）も現在のところ、時間がかかりそうである。事態は緊急である。私たちは、巨大な難民キャンプと化した一〇〇万都市カーブルが、一人も餓死者を出すことなく今冬を乗り切り、難民化を避けて平和な市民生活を送るため、ここに大規模な行動を起こす。即ち、餓死の予想される人々の生命を保証して惨めな難民化を防止すべく、直ちに餓死に直面すると推定される一〇万名（約一大家族）の食糧配布を自らの手で直ちに開始する。状況次第ではできる限り更に拡大する。

（中村）

一〇月三日（土）

お疲れさまです。一日、朝方三時頃ジャラバード周辺に大規模な空爆あり。軍事施設近くの民間人居住地にも被害が出た。住民達の話による民間人の死者は一五〇名以上。市内は、残っていた住民達が再度避難を始め、最初の攻撃時よりも混乱していた。店はほとんど閉まってしまったが、

バザールは半分が開いているとのこと。

作業進行中の井戸について、再開する場合どのように始めるか、また金額は元のままで良いか等の問題を本日ジャラバード事務所にてチーフ会議を開き決定する予定。

本今朝一〇時、ペシャワールに避難していた水源確保事業関係スタッフ三人が、カーブル食糧配布計画に参加する為ジャラバードに向けて出発した。

以上、シア副院長からの連絡が入れば再度メールします。

（連岡）

一〇月四日（日）

お疲れさまです。昨日現地時間四時頃シア副院長が病院に無事たどり着き、簡単な報告をされました。詳しい打ち合わせ等は月曜日に始める予定です。以下、シア副院長からの状況報告。

カーブルでの一連の空爆の被害は、シア医師自身を確認した所によると、ほぼニュース通り。援

助団体の施設「誤爆」も事実。一日、二日には昼間の爆撃もあり、住民達の被害も出ている。住民はこの状況下でもさしたる混乱は見せていない。

カーブルの女性達は昼間ミサイルが飛んで来るのを見て「またボテトが飛んできた」と驚きもせず見上げていたという。タリバンは昼間は寝て、夜は起きて前線を死守しようとしており、住民達はアメリカによる空爆よりも、北部同盟軍による略奪、殺人、強姦等の方を恐れているとのこと。

カーブルに住むパンジェシリー（編註・北部同盟を構成する部族、パンジシェール渓谷出身者）はこの間沈黙を守っており、表にもあまり出てこない。そのかわり最近ハザラ人による大規模な暴動が実行直前に発覚、タリバンにより一六〇名が検挙され、大量の武器が没収された。また、市内でハザラ人運転の車がジア副院長の乗る車を急停車させ、ジア副院長に対し罵詈雑言（ばりぞうごん）を浴びせた事があったそうだが、その時はタリバンの警備員が駆けつけ文字通り退治したそうである。

ジア副院長によると、街では混乱時を利用した略奪、暴動などが一件も発生していない。街の風景は以前と変わりなく機能しているように見える。PMSオフィスには一日おきにタリバンが見回りに来て、用事はないかと気遣ってくれているという。

現在、カーブルで活動している援助医療機関はPMSのみ。一日の診療者数はあまり変わらず、被爆による怪我人も今のところ運ばれてきてはいないとのこと。

以前報告のあったWFP（世界食糧計画）が大量に運び込んだ小麦は、全て倉庫に入れられており、現在活動の見通しは指示されていないとのこと（関係者談）。食糧関係で現在ナン（アフガンのパン）の無料配布を行っているのは、以前から休まず続けられているオサマ・ビンラディン系の援助団体だけ。カーブルの人口は、避暑で来たいた者達が帰っていき、だいたい以前と変わらず、平年通り。

食糧配布計画について。

現在、カーブルの市場では小麦が手には入るが、大量に買うと値段を吊り上げたり、また、固定された流通に影響を与える恐れがあり、ペシャワールで買い付け、運送した方が適当ではないかと判断。月曜から、輸送業者、小麦製粉所を廻り、値段交渉に入る。国境を越える輸送についてはジア副院長、シヤラフ医師とも問題はないという意見。

今回分配の方法等を諸機関に聞いて廻り、具体的な方法を教えてもらったので、それらを我々なりにアレンジし直して実行に移す予定。大まかには、ペシャワールで買い付けた小麦を民間の業者を使いカーブルに輸送し、数箇所に分けた倉庫に保管。一時に大量の小麦を貯蔵すると危険なため、先ず四大家族分を運び、貯蓄が一千家族分になった時点で再度輸送を行う。分配はカーブルを四つに区切り、一区域ごとにセツトアップを済ませ四区同時に開始する。時間差をつくると、居住民間の対立を招く恐れがある。必要なスタッフはカーブルで雇用。

ジャララバードでは連夜空爆が続き、カタプー

ルでは住民二〇〇人が死傷。スタッフのハンザマン氏が確認した。現在使われている軍施設はなく、大きな家が密集していた場所に被弾した。以前にムジャヒディンの施設があつたが現在では使われていなかった。住民達は軍事施設だけの攻撃だと思っていたのに、居住区まで攻撃が始まった事に対して怒りをあらわにしており、避難はまだ続いている。ディーゼルの値段が以前の倍近くまで上がっている。農村部では食糧不足が酷くなり、冬には食べ物がないと恐ろしいと話しているとのこと。今日チーフ会議を開き、作業開始準備を進める予定。

以上、また連絡が入りましたらメールを送ります。
(蓮岡)

一〇月一六日(火)

お疲れさまです。本日より病院スタッフを動員しての食糧供給計画の準備が始まりました。作業の進行状態を報告します。本日、イクラムラ事務

長、ジア副院長、シャラフ医師等と会議を開き、早速小麦と油の値段交渉と輸送手段の確保を行った。午後三時頃からそれぞれ集めた情報と実物のサンプルを見比べ検討した結果、第一次輸送計画は次のようなものになりました。

第一次輸送

①資金…一〇万ドル（ルピー換算六三〇万ルピー）。

②配布量…一家族一〇人の三ヶ月分。

③分配予定家族数…カーブル…一九〇〇家族

ソルフロッド郡…五〇〇

家族

合計二四〇〇家族

この他、諸々の必要経費も出て来ると思いますが、それらは水源確保事業のほうから立て替えて進めます。通行許可は、闇市場でイクラムラ事務長が手に入れるとの事（連絡済み）。

現在援助物資の輸送は、国連かWFP（世界食糧計画）を通さないとできないという事です。U N H C R（国連難民高等弁務官事務所）を通して

の活動が多かったのはこのためではないでしょうか。今回は、個人輸送で送ります。アフガンでの関税は現在無料。輸送に関しては明日再度値段の確認、業者との契約を進めます。

会議でイニシャルの事が議題に上がり、意味が住民に伝わりにくいという意見が多く、「fund for life」にしてはどうかとの提案がありました。

ロゴマーク、小麦袋のマーク等は既に手配済み。

順調に進めば、金曜か土曜には、荷の送り出しができるのではと予想しています。以上、明日また進行状態を報告します。

（連岡）

お元気でしょうか。一三日（土）にジア副院長たちがベシャワールへ無事に帰ってきました。ほっとしました。カーブルの診療所五つともほんとうに通常通りに機能しているようです。いくつかの私の疑問にジア先生が答えたものを箇条書きにして報告にします。

1. 診療所の患者数は減っているか。又薬品は

足りているか？

——患者数は変化ない。カーブルではPMSしか機能していない。先月まで薬の補給が可能かどうか判らなかったので患者は制限せずに診て、薬は限定した数の患者にしか出さず自分で買えそうな人には処方箋のみを書くようにアレンジしていたが、今回三ヶ月分の薬品をストック出来たので、全部の患者に薬品投与を開始した。スタッフは、診療所に勤務する女性ワーカーもいつものように働いている（ジア副院長もこれには驚いていた）。

2. カーブルの人口は減っているか？

——前も中村先生に話したが、ここ最近カーブルを出て行く人達は、避暑のため、カーブルにパキスタンから移っていたアフガン人家族か、金持ちで避難の為に運賃の払える家族、が殆どだった。カーブルの人口はそう減ってはいない。ほんとうに何処にも行きようのない貧しい人達と、大きな敵（それも異教徒であればもっと良い）との国を守る為の戦いで死ぬことは神からの大きな徳が得られるという、イスラムの教えに従いたい人達が

残っている。

3. バザールの状態は？

——殆どの店が開店している。薬品はイランから入って来ている。爆撃が続いているが驚くほどカーブルの治安は良く、泥棒も出ていない。PMSの事務所にも毎日困った事はないかとタリバンの一員が見回りに来てくれる。

4. カーブル市内に住んでいる部族同士の争いは起きていないか？

——アメリカの空爆が始まってからハザラ族の人たちは墓に隠していた武器を掘り出して一六〇名が戦う準備をしていた。バザールのナン屋にいつも二〇〇枚のナンを買いに来る客が出現し店主がおかしく思いタリバンに報告し発覚された。武器は没収されリーダーは逮捕された。マスード支持派の居住区、その他は平静だった。

5. 最近のニュースではWFP（世界食糧計画）が小麦粉を運んでいるとあるが実際にはどうか？

——来てはいるが倉庫に保管しており市民には

渡っていない。今はオサマ・ビンラディンが援助しているナン屋が機能しているだけで、何処の援助もない状態。

6. いつからオサマ・ビンラディンが援助しているか？

——数ヶ月前にWFPがタリバン政権にベーカーリーで女性ワーカーを働かせるように要求、もし拒否するならWFPからのベーカーリーへの援助を停止すると通告した。しかしタリバン政権は、医療関係の女性ワーカーは認めるがWFPのこの要求は承諾できないと断った（私もこのニュースは見ました）。その時、オサマ・ビンラディンがそれなら私が援助しようと申し出て始まった。

以上です。ペシャワールのタリバン事務所やモスクでは女性達が、戦いに参加できないので資金にしてくれるよう自分の宝石を差し出しているそうです。

食糧計画の方は蓮岡さんから報告が入っていると思いますが、たいへん良い感じで水源確保事業の職員と病院スタッフ、アフガニスタンとパキス

タンが協力し合って滑り出しています。私達は皆元気にしています。（藤田）

一〇月一七日（水）

本日一七日、昨夜ジャララバードより到着したジャ副院長らを交えて会議を開き、今後の予定と計画を協議した。カーブル食糧配布作業に対して、水源確保事業より二〇名のエンジニアを派遣予定。ジャララバード作業は、爆撃被災地中心に緊急援助として配布予定。四人から成る調査班によって最初に独自で調査を進め、次に地元長老による会議で確認、政府の立ち会いのもと配布の予定。

水源確保事業は日曜日から通常作業開始予定。作業進行井戸七〇ヶ所。岩石爆破班、ポンプ隊、施工隊すべて通常体制で作業を開始。手書き資料を確認して大まかに把握したデータでは、現在進行井戸五〇ヶ所。

ただ井戸全体の三〇パーセントが涸れつつあります。ロダット郡は三ヶ所を除き全て使用可能状

態（ボンブ一〇隊が活動中）。機械ボーリング契約を増やすように指示を与える。

彼らの士気は高く、カーブルでの作業中に爆撃により事故にあった場合の人員補充の段取りまで真剣に話し合っていました。日本での活動も体をいたわりつつ進めてください。

（蓮岡）

一〇月一八日（木）

お疲れさまです。食糧計画の進行状況から報告です。

予算一〇万ドルでの第一段計画。今回の予算内で進めた所、二三八〇家族分の食糧が配布可能。既に精製工場側への手付金支払いも終わり、一七日から小麦袋のマーキング及び袋詰め開始。許可申請、その他の手続きは工場を通して輸送会社が代行。契約済み。一八日トラック積み込み開始予定。

第一陣、金曜日出発予定。小麦五台、油二台。

ジャララバード行

第二陣、日曜日 小麦七台 カーブル行
第三陣、火曜日 小麦五台 カーブル行
以上が出発予定。 （蓮岡）

お疲れさまです。

情勢が日々変化しています。輸送は慎重かつ迅速に行い、計画の実施を進めてください。

既に日本の報道では、「カーブルの国連管理」がとりざたされ、タリバン中枢部は、「各人の判断で戦うなり、投降するなり自由」との指示を出したようです。しかし、各地域のジルガ（長老会議＝伝統的自治組織）の構造は変わりませんので、あくまで住民の事情を中心に動く方針は、今後とも変わりありません。それに、仮に国連軍進駐となっても、それまでずいぶん時間がかかります。物資をどんどん送ってください。日本からは、次々と送金が行われます。小生は日本を離れ二九日、現地に着きます。

（中村）



ベシャワールの倉庫で出荷を待つ小麦粉

藤田さん。事態が流動的につき、以下をとり急ぎ伝えてください。

1. 状況が困難な場合は、最も搬送しやすい場所へ蓄積のこと。
2. 配給場所と方法は必ずしも予定にこだわらなくて良い。
3. 先ず、どんどんアフガン内部へ送ること。さしあたりジャラバード周辺の安全地帯で構わない。
4. ニーズは無限であるから、とにかく飢餓迫るところなら、どこでも良い。
5. カーブルからの避難民は、大半がジャラバードを指すだろうから、最悪の場合、逃げてくる者に片っ端から配給しても良い。もちろん、事情が許せば、カーブル市内が最善ではある。
6. タリバンは四散しつつあると伝えられるが、地方のジルガ（長老会）を背景に、何として

も続けること。

7. カーブル接近が無理な場合、より規模の大きな配給態勢をジャラバードやドラエヌール渓谷で準備のこと。

8. ペシャワールでの買い付けと輸送は、とにかく急げ。次の一〇万ドル分輸送を準備せよ。

9. ジャラバード周辺農村の安定が難民回避の一つのカギとなる。ニングラハル州内部の避難民を対象にして構わない。カーブル接近が不可能な場合、同州に重点を置いてよい。

10. 今、連絡の遅れは致命的である。逐次要点をこちらに連絡のこと。
(中村)

今日ジア副院長はカーブルへ向かいました。最近ほタリバン政権が倒れそうな情報しか入らないので、食糧をカーブルへ送る前に状況を確認する為のアフガン入りです。今朝の会議でもしカーブルが食糧を送れる状態ではない場合、ジャラバードに一時保管して置こうかとジア副院長は

言っていました。カーブルの情勢が悪くなるとラグマン州やクナール州の方へ避難する人たちが多いそうです。もしカーブルが危ない時はそちらの方で配った方がいいのではないかと話していましたが、カーブルからの連絡待ちになっていますが、ジャラバードへは明日第一便（小麦粉トラック五台、食用油二台）を送る予定です。
(藤田)

一〇月一九日（金）

現在のところ、国外へ逃れる難民は南部のチャマーンクエッタ間が主で、数千人規模のようです。大多数が逃れると予想される東部では、今のところ大きな動きはないようです。しかし、WFP（世界食糧計画）の必死の輸送にもかかわらず、慢性的な食糧不足は、カーブル、ジャラバード共に、小麦の値段に現れ始めているようです。問題は有効な配布手段を請け負うNGOがないからのようです。カンダハルでは、WFPがタリバン当局に「戻って協力して」というこれまでにない

異例の声明を出しています。しかし、カーブルについては北部同盟の侵攻可能性で、身動きがつかないでいるようです。米軍が「地上の移動部隊」を狙い始めたので、輸送トラックの安全性を案じております。でも、このところはジャララバードへの輸送を速やかに行うことが大切です。（中村）

情勢は時間毎に変化している。既にカーブルで初期の見通しでの計画実施は不可能になりつつあると見る。カーブルやジャララバードの孤立は時間の問題となった。そこで、これは超緊急事態との判断で以下を速やかに実施のこと。

1. 第二派、第三派の輸送を数日以内にジャララバードに行う。
2. 極力「貯蔵」を避け、村々の長老会を通して、緊急配布する。
3. 配給地域はジャララバードおよび周辺農村、特にソルフロッド郡、ダラエヌール渓谷、クナール州の各村落、特にカーブルからの避難

民が殺到すると思われる地域。

4. 全ての現地指揮はジア副院長、その補佐としてシャラフ医師に任せ、水計画に従事してきたものは一時解散して、全員、食糧配布完了まで、人事を含め、完全にその指揮下に入る。水計画はその後再組織化できる。数日以内に食糧輸送が不可能になりうる。何をにおいてもこれを急げ。水は完了まで後回しでよい。指揮下に入らぬものは解雇。

5. 総額三〇万ドル（うち一〇万ドルは既に送付した）を直ちに送る。

6. 小麦、食用油は必ずしも同時に行う必要はない。食用油の買い付けで遅れるなら、先ず小麦を送り、油を別に輸送できる。

7. 配布時の記録（写真、配布量、村名、日付、受け取り家族数）を記録のこと。

8. 日本人ワーカーは会計および記録・報告の役に徹し、多少の試行錯誤には目をつぶること。イクラムラ事務長はベシャワールでの買出し、国境トルハムを越えるまでの輸送に責

任を持つこと。

9. 以上をこの一週間の方針とする。 (中村)

一〇月二〇日(土)

情勢は刻々と変化し、予断を許しません、今のところ順調といえそうです。一層の大規模輸送を、道路網が遮断される前にアフガン国内に開始、少しでも難民化による悲劇を減らすために全力を傾けます。

WFP (世界食糧計画) は「アフガン国内に留まるNGOがない」と述べ、大量輸送しても配布段階で足止めを食らっているようです。何れ、彼らとも協力することができるとは思いますが、時間を争う現状で、ペシャワール会独自の方式で実をあげたいと思っています。現地で文字通り命がけで尽すアフガン人職員たちに、一層のご声援をいただければありがたいです。

なお、第一次計画の総額約一二〇〇万円(一〇万ドル)、二四〇〇家族(二万四千人)の三ヶ月

分に相当する小麦粉四八〇トン、食用油四三二〇リットルの輸送手配を完了しております。食用油とは、現地の食事に欠かせぬもので、日本食の「味噌しょうゆ」に相当するものです。 (中村)

一〇月二一日(日)

ご苦労様です。

写真を確かに受け取りました。ひきつづき頑張ってください。ここ数週の食糧輸送が、ペシャワール会で過去最大の正念場です。現在のところ、国外へ逃れる難民は南部のチャマン・クエッタが主で、数千人規模のようです。大多数が逃れると予想される東部では、今のところ大きな動きはないようです。クエッタへ逃れる難民は、南部カンダハルの無政府状態が原因であることを認識し始めたようです。

カブールについては北部同盟の侵攻可能性で、身動きがつかないようです。米軍が「地上の移動部隊」を狙い始めましたので、輸送トラックの安

全性を案じております。

でも、このところはジャララバードへの輸送を速やかに行うことが至上命令です。その後の分配方法は、ジャララバード出身者でもある、ジア副院長、シャラフ医師を全権代表として、全て彼らの判断と采配に任せ、PMS関係者全て、水計画の者も当然、服従するよう再々呼びかけて下さい。水計画はいったん休止、全てを食糧配給に集中すること。この期に及んで、一切のセクションを超えて、PMSあげてのプロジェクトであることを再度伝えます。

ペシャワール会の興廃はこの一戦にあり。

まずジャララバードまでの輸送！ その後は、ジャララバードとアフガン社会を熟知するジア副院長とシャラフ医師が全指揮をとること。これを当面の鉄則とします。日本人を含める外国人は、いかに現地を知ると言っても、住民自身である彼らには、かないません。ここは自分の任務に徹し、アフガン社会で起きやすい分派活動を封じること。「みなPMS職員。危急時には一致すべき」を徹

底のこと。くだいようですが、成否のひとつのカギになります。
(中村)

一〇月一九日午前九時より、ハヤタバード近くの製粉工場で食糧計画の積み込み作業を開始、正午現在積み込み中。五台分の小麦粉は午後二時近くまでに積み込みの後、出発予定。

一〇月二一日朝七時、PMS病院事務長及び水関係スタッフはトルハムに向かい、タックスの件で少し手間取ったが午前十一時頃国境を越え、午後三時頃ジャララバードに無事到着した。当日はパキスタン放送が取材し、夕方のテレビ番組で国境をPMSの「Japan Fund For Life」と記されたマークをつけたトラックが通過する所が放映された。PMSジア副院長より、午前一〇時頃、カーブルから以下の連絡あり。

- (1) カーブルの街の様子は、混乱は全く無く平穏で落ち着いており以前と同一ような様子。
- (2) 活動を行うための倉庫を確保する予定。



配給された小麦粉を担ぐ老人

その後カーブルよりジャララバードへ戻ったスタッフより、

(1) ジャララバードでの倉庫の確保を開始。

(2) 現在水計画を含めた食糧計画スタッフ三

〇名の他一〇名をカーブル側で雇用する予定。

(3) 配布用トラックが足りないので二台購入希望。

(4) 調査を開始してみても感想は、カーブル市民の九五パーセントは食糧配布の必要があるのでは。

次の小麦粉輸送は二二日(月曜)で、トラック七台分がジャララバードへ送られる。(蓮岡)

一〇月二二日(月)

昨日は国境の町トルハムからトラックを無事にアフガン内に入国させた後に病院へ帰り着いた事務長と、テレビのニュースを見ようとしていた所に、当日送り出した小麦粉と食用油を積んだトラックに載ってジャララバードへ向かったドク

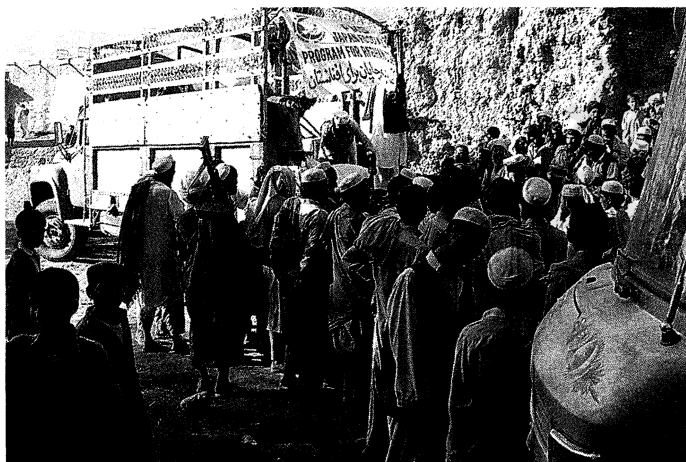
ターより電話連絡が入り、「無事にジャララバードの事務所に着き、荷降ろしをしている」と伝えられました。そのすぐ後にパキスタン国営放送のニュースが始まり、トルハム国境で「PESH-AWAR KAI JAPAN MEDICAL SERVICE イムダッデー・アフガニスタン（アフガニスタンの為の援助）」と書かれた垂れ幕をつけたトラックがパキスタンからアフガニスタンへ入る所が映りました。思わず万歳と声をあげ、ここ数日たくさんの手続きの為走りっぱなしの事務長におめでとうと言うと、たいへん満足そうな笑みを浮かべていました。ニュースが終わり、とにかく早く日本にも知らせなくてはと思い電話しました。

中村先生より「一刻も早くたくさんの食糧をジャララバードとカーブルの人達に届けるように」と指令を受けた病院では、蓮岡さんはジャララバードにいる井戸掘り部隊から主要なスタッフをペシャワールへ集め会議を開き計画を練り、その傍ら事務長と製粉工場や製油工場を回り生産過程のチェック、トラックへの積み込み確認。会計

担当の目黒さんは藤井さんと中山さんに協力してもらいながら銀行へ走りドルからルピーへの換金業者への支払い。また現地の数名のドクターとナースは製粉所や製油所を回って品質と価格を調べ、事務関係スタッフは、こちらでは珍しい残業をして、食糧配布時に使う数千枚のカードを作成、小麦粉袋にはペシャワール会の印をつけるためのスタンブ作成やトラックにつける垂れ幕を作成。副院長は、井戸掘りのスタッフと検査技師一人を連れて日に日に激しくなっているアメリカによる空爆と北部同盟の攻撃が今かと心配される状況にあるカーブルで食糧配布が可能かどうか調査に行き、それぞれが全力をあげて取り掛かっています。

昨日カーブルより電話があり、食糧は配れるとの連絡が入っています。ジャララバードで副院長の連絡を待っていたそのドクターは、蓮岡さんがカーブルでの家族調査と食糧配布の為に井戸掘り部隊から選り出してアレンジしたチーム（二〇名）を連れて今日カーブルへ向かいました。

事務長は、今回注文した小麦粉一七台分（約五



空爆下も現地スタッフによって行なわれた「アフガンいのちの基金」

〇〇トン）終了後は新価格（値上げ）で注文を受ける。と製粉工場が言ってきたために、一つの業者が注文が集中（アメリカもこの業者を使用）するのが良くないから他の業者も調査してみる方がよいと言い、日曜日を返上してペシワールからずいぶん離れている地区まで行き、数ヶ所の業者を当たり夜遅くに帰り着きました。あと二回トラックを送り出すので、それまでに次の契約を交わさなければなりません。

ジア副院長は「ペシワール会から来たお金を一ルピーも無駄をしないように使う」と言いいきり、イクラムラ事務長は絶対に大金を預かろうとはしません。会議の機会をみてはペシワール会が今どのようにして募金を集めようとしているのか、中村先生が今日は何処そこへ講演に行ったとか話しています。

もちろんどのような気持ちで多くの人が福岡の事務局に集まって作業をしているのかも話しますが、最近はそのことを話していると自分の方が先に感動して最後まで話せないときがあります。

まだ始まったばかりのプログラムですが、こちら
も皆で協力して何とかカーブルの人達に食糧が届
けられるように頑張ってみます。どうか皆さんに
もそのようにお伝えください。そして夜間空爆の
続くジャララバードやカーブルで働くスタッフの
安全を特別にお祈りください。

(藤田)

ドクター・サーブ (中村哲先生)

業務繁忙のため、報告が遅くなり大変申し訳あ
りません。

昨一〇月二二日、小麦五〇キロ入り袋五六〇個
を積んだトラック四台と食用油一六キロ入り一二
五〇缶を積んだトラック二台を急送しました。第
一輸送団は様々な手続き上の問題と車輛の故障な
どで移動が遅れましたが、最終的にはPMS医師
スタッフやエンジニアとともに同日、アフガニス
タンに到着いたしました。食用油を積んだトラッ
クはその日のうちにジャララバードの我々の事務
所で荷を下ろすことができましたが、小麦を積ん

だトラックは夕方うちに荷を下ろすことができ
ず、かといってジャララバード市内で待機するこ
とは爆撃の心配があるためジャララバードの外で
一晚待機し、翌朝、事務所に到着して荷を下ろし
ました。

ジア副院長はまだカーブルにおります。カーブ
ルの状況は悪化していますが、ジア副院長の要請
により医師スタッフをカーブルに送り、小麦と食
用油の即時配布を手伝ってもらうことにしました。

一〇月二二日、幹線グラランド・トランク・ロー
ドとチャールサダ・ロードの製粉所一〇ヶ所を調
べました。本日、会議を開いて次の輸送分の注文
の最終決定をいたします。ひとつの製粉所でこれ
だけ大量の小麦を揃えるのは難しく、また現在小
麦が市場でも品薄になっているため多少問題があ
りますが、今日中に解決することができるとしよ
う。

日本の国会からのお客様は昨日、無事に到着な
さいました。今朝は小麦製粉所にお連れし、「ペ
シャワール会ジャパン・メデイカル・サービス」



食糧配布カードを手に配給を待つ人々

の旗じるしをつけたトラックに小麦を積んで出発するところをお見せしました。

私は一九六トンの小麦を積んだこれら七台のトラックが無事国境を越えられるよう、トルハムまで行く予定です。神の御加護イシヤ・アッラーがあれば、トラックは夕方にはジャララバードに到着し、明日の朝には荷を下ろすことになるでしょう。これまでに第一回輸送分四七六トンのうち、三〇八トンの小麦を配布しました。残りの一六八トンは、神の御加護があれば、一〇月二四日に配布できると思います。

こちらで小麦供給が止まることはありません。本日次回輸送分の注文を最終決定し、上手く行けば一〇月二七日ジャララバードに向け、出発することができるようですよ。

ご存知のように、また私たちが予測したとおり、米軍はアフガニスタンでの地上作戦を開始しました。同作戦が成功しているのか失敗しているのか、今のところ分かりませんが、アフガニスタンの状況に影響を与えたことは間違いありません。人々

は以前よりもっと、とくに夜は警戒しており、緊張感もある程度感じられます。

アフガニスタンへのトラック輸送の状況はほぼ全てビデオテープに収めました。私がトルハムマでカメラを持参し、トラックがアフガニスタン入りする様子を全て撮影いたしました。この様子はパキスタンテレビも取材し、ニュースでも放映されました。

(PMS事務長イクラムラ・カーン。訳・沢田裕子)

一〇月二三日(火)

今回、空からの爆撃が激しかったジャララバード近郊のソルフロッドで、一〇月二三日に小麦三ヶ月分が九二家族に配布された。先日来二陣に分けてペシャワールより届けられた小麦粉の、最初の配布になった。

現在ジャララバードでは空爆は止んでおり、状況を見てさらに配布を進める。また二四日にはジャララバードよりカーブルに小麦を搬送し配布

を始める予定である。カーブルでは爆撃が激しく、その合間を縫っての行動になるが、先頭で指揮する副院長をはじめ現地スタッフの士気は高い。日本人スタッフと昼夜を問わず奔走した事務長やPMSのスタッフが手を取りあつて食糧配布計画の最初の成功を祝った。

(目黒。電話を日本側事務局でまとめた)

第一期(一〇月二一日～二六日の予定)が終了して、第二期において発送される小麦粉の値段交渉を数件の業者と行なった。その結果大幅な値上りはないと思われる。第一期に契約した業者は今回の一キロ当り八・六ルピーから九・四ルピーへの値上げを主張していたが、他の業者から八・五ルピーという価格を提示されている。明日の第一期第三便は運送業者の都合で明後日になると思われる。

カーブルにいるPMS水源プロジェクトのスタッフから連絡があり、カーブルでは本日(二三



配給計画は、より困窮する地域を優先して行われた

日）より食糧配給のための調査を始め、三、四日で終了する予定とのこと。調査用の人員を現地で一〇人雇用。調査終了後ジア副院長はペシャワールに戻るとのこと。

ソルフロッド郡で九二家族に小麦粉及び食用油の配布が行われた事が報告された。食糧配布のための調査も継続されており、急を要する地域から始めた。ジア副院長からの指示でジャラバードに保管している小麦粉及び食用油トラック三台分をカーブルに向けて準備し、午後に発送する。カーブルへはこれが初荷となる。ジャラバードの倉庫の備蓄許容量については明朝に確認され報告される。

悲願だったドラエメールのICRC（国際赤十字委員会）クリニックそばの井戸で水が出たとの報告がありました。二三日夕方その報告を聞いた時、掘っている井戸から水が出た時と同じ感動を味わいました。明朝の連絡時に深さ何メートルで水が出たのか確認します。

空爆開始から一五日目にして、日本で応援して

下さっている方々の善意を届けることができました。昨日のトラックの運転手の中にジャラバード出身の者がおり、「PMSの名前もオフィスも知っている、日本人は友達だ」と言っておりました。イクラムラ事務長も顔をくしゃくしゃにして喜んでいました。あれほど嬉しそうな顔は初めて見たように思います。シア副院長の連絡があれば第二期もすぐスタートできる態勢です。中村先生が日本から戻られるのをお待ちしております。

(目黒)

一〇月二五日(木)

本日ジャラバードに到着したシア副院長の報告。

——二六日に五〇二家族分を残して残りの小麦粉をジャラバードからカーブルに送る。カーブルでは土曜に打ち合わせをして日曜に配り始める。倉庫は大量貯蔵が可能な物が用意できている。行政当局は協力的で感謝しておりチョキダール(門

衛)を二人用意した。

カーブルの飢餓状況の調査は半分が終了。東の四分の一の地域だけで五千家族は必要。空爆は昼夜問わず続いている。女性も子供も興奮状態にある。市内の状態は想像以上にひどい。食べ物も飲み物もない人が多くいる。特に緊急な東の地域を優先的に配る。

二六日朝五時にペシャワールから出発する六便はジャラバードまでの予定だったが、シア副院長の連絡でカーブル行きに変更した。カーブルへの輸送費は値上りを続けている。昨日は一万七千ルピー、本日は一万八千ルピー、明日は一万九千〇〇ルピー。

ソルフロッド郡では本日バラバーク村にて三三家族に配布した。前回の九二家族の内訳は、バホバニー村三四家族、クラム村二三家族、カクラック村三五家族。

シア副院長の連絡を受けたイクラムラ事務長は、第二期の食糧配布計画と第三期は同時に進行させて、早急に発送する必要がある可能性がある。

と述べた。

(目黒)

一〇月二六日(金)

先程国境トルハムのイクラムラ事務長より連絡が入り、今早朝にペシャワールを出発した六台のトラックが無事に国境を越えたとのこと。これで第一期に予定していたトラック一九台分の食糧が全てアフガニスタンへ送られました。私達も回を重ねるごとに、より早くアフガニスタンへ送り込むにはどうすれば良いかが解って来ています。何よりもイクラムラ事務長とジア副院長の努力には私達も励まされています。昨夜も九時過ぎまでイクラムラ事務長とスタッフハウスで次の計画を話し合いました。ジア副院長とも話しましたが大変に元氣そうで、喜んで動き回っている様子が手にとるように伝わってきました。中村先生とペシャワール会の方達にとっても感謝していると伝えるように、とのことでした。

(藤田)

前回の報告の「輸送先」及び「配布可能家族数」はペシャワールから発送した時点のものです

(二家族＝一〇名)。

ジア副院長の連絡ではジャララバードに五〇〇家族分ほどを残し、後はカーブルに輸送することです。

(目黒)

一〇月二七日(土)

ジャララバードにいるスタッフからの報告では、ソルフロッド郡において小麦粉と食用油合計二〇七家族に配布されたとのこと。月曜(一〇月二十九日)に小麦粉トラック六台および食用油一台がペシャワールより発送され、火曜(三〇日)の早朝に国境を越える予定。

輸送費は日毎ではなく時間毎に値上がりが続いている。カーブル向けで昨日は一万九五〇〇ルピー(約三万五一〇〇円)を提示されたが、月曜



輸送トラックに小麦粉を積み込む

は二万四五〇〇ルピー（約四万四一〇〇円）になる。

食用油の次回発送分は鉄の缶の容器ではなく、一リットルのパックが一六本入ったダンボールで送る。経費が若干安く破損に強いのではないかと、というイクラムラ事務長の意見により決定。一六リットルの食用油で六四五ルピー（前回は七〇〇ルピー、約一二八〇円）になる。

小麦粉も今回は〇・一ルピー安く契約ができたが、今後値上がりが予想される。北西辺境州は元々小麦の生産は比較的少なく、現在もパンジャブ州から運ばれて来ている。WFP（世界食糧計画）からの発送もあり在庫を使い切っている製粉所もあるとのこと（一ルピー＝約一・八円で計算）。（目黒）

一〇月二八日（日）

ジャララバードからの連絡では、ソルフロッド郡における第一期食糧配布のための調査が終了し

たとのこと。

本日（二八日）よりアガン郡での調査が始まった。明日（二九日）より配給も同時進行の形で始める。

アガン郡はチャブラハル郡の近くでPMSの水源地確保事業の作業は行われていなかったが、貧窮の度合いが激しいため始めることにした。グラエヌール診療所のスタッフからの伝言では、ブディアライ村だけでも始めて欲しいと依頼があった。ジア副院長の判断で始めてよいと伝えた。

食糧運搬トラックとともにアフガンに入国したスタッフは、昨日パキスタンに戻れず、国境のトルハムからジャラバードに引き返した。トルハムでパキスタンからの義勇兵が押し掛けており、かなりの混乱があったという。

（目黒）

一〇月二九日（月）

ジャラバードからPMSスタッフが戻り、空爆され倒壊した家や死んだ家畜の画像と共に、

「FUND FOR LIFE（ふのちの基金）」の食糧配給風景画像も持ち帰った。

食糧輸送の第二期第一便である四回目の輸送が始まる。分かりやすくするために今後は計画を通じての便数に呼称を変更し、今回は第四便にあたる。第四便は明朝カーブルへ出発予定。昼過ぎに国境を越える。

食用油一台、小麦粉六台。輸送費は食用油二万五千ルピー（約四万五千円）、小麦粉二万五五〇〇ルピー（約四万五九〇〇円。初期の見積もりは一万七千ルピー、約三万六〇〇円）。

ソルフロッド郡の食糧配給もさらに続行し、現在四、五割が終了した。アガン郡は昨日三〇家族、本日二五家族に配給した。アガン郡も空爆を受けていた。

本日、ロダット郡から一人の長老が病院を訪ねてきました。ハジ・ムハマッド・ハッサンという名で、地元の責任者でもあります。この一ヶ月ほどPMS水源地確保事業のエンジニアが時々しか来ず、井戸掘りの続行の指示が出ていたが本当に自

分達で進めていいのか不安になっていたようです。彼は以前からも我々の活動に特に協力的だった村人です。

現在の食糧配布計画について話し、可能な限りは続行するように伝えると、「あなた達日本人は必ずペシャワールにしていると信じてここまで来た。やはりあなた達はいたし、新しいことも始めていた。忙しそうに働いているのを見てうれしくなった。帰って来るまで作業は続けるから心配しないでほしい」。そう言つて私と中山君を抱き締めると帰っていきました。

届いた画像は空爆のひどさを伝えていました。壊れた家、横たわる家畜、巨大な不発弾、新しいお墓。想像し覚悟もしてましたが、やはり悲しくなりました。

対照的に、配給風景はやはり「ペシャワール会の活動」でした。クリニックに來た患者さんの家族がお礼を言う時の顔、井戸から水が出て喜ぶ村人の顔、一生懸命働くスタッフの顔。医療活動も水源確保事業も食糧配布計画もすべてが、やはり

「ペシャワール会の活動」だったと感じました。追つて送りますので、楽しみにしてて下さい。

(目黒)

一〇月三〇日（火）

中村医師は無事にペシャワールへ到着した。

本日第四便の食用油のトラックの出発を見送つた。第四便は食用油一台小麦粉六台。小麦粉のトラック一台がトルハムに向かう途中故障し、明日国境を越える予定。他の六台はジャララバードへ到着。

ケーブルのジア副院長より連絡があった。食糧配布のための調査は終了し、在庫もすべて配り終えた。ジア副院長は明日ジャララバードに戻り、明後日にペシャワールへ。中村先生とこれまでの報告と今後の体制について打ち合わせる予定。ダラエヌールのブディアライ村は食糧配布のための調査を終了。明日より配給開始。

本日五時より病院内で集まつた報道陣の取材を

受けた。報道の方には中村医師の指示ですべての画像をコピーして渡しました。

(目黒)

一月一日(木)

一日(一〇月三〇日)午後、シア副院長がカーブルよりペシャワールに帰着し、現地報告と今後の展開について会議を行った。カーブルの人々は「逃げ惑うか、死ぬしかない状態」だという。多くの人々が安全だといわれていたメクラヤー地区に集まっていたが、爆撃され、ハイハナー地区に避難した。しかしハイハナー地区も爆撃され、またメクラヤー地域に移動していったとのこと。昼夜問わず爆撃が続いているが町から逃げ出す資金が無い人がほとんどだという。

他に活動していた組織についてはCARE、WFP(世界食糧計画)、ICRC(国際赤十字委員会)の情報があつたが、CAREは既に撤退し、WFPはカーブル郊外まで物資満載のトラックが来るが、市内で見かけることはなく配給も行われ

ていない。ICRCは直接の空爆被害者のみしか活動の対象にしておらず、そのため殺到した他の市民により活動を断念したという。一部では略奪もあつたとのこと。

PMのオフィスは、付近にタリバン高官やアラブ人の住居があるため危険だと判断し移動した。パキスタン義勇兵が宿泊していた建物が正確に爆撃され二七人が死亡したが、ICRCの建物が二回も爆撃され、避難した市民が集まっていただけの場所も爆撃され、市内に安全な場所はないと不安が広がっている。食糧配布のための調査に回っていたスタッフが立ち寄った家では、子供がナンのかけらと唐辛子だけを食べていた。ほとんどの人が食糧を充分に得られていなかった。

PMの配給時においてタリバン当局も懸命に協力していたが、配給対象とするべき人が予想以上に多く困難だったとのこと。概算でも二五万家族が危険な状況にあるという。より多くの人々に配給するために、一家族あたり小麦粉二〇〇キロ食用油一六リットルの計画を、小麦粉一〇〇キロ



ペシャワールにある製粉業者の店先

食用油八リットルに変更することが提案された。
ジア副院長の報告は生々しく凄惨なものでした。
日中忙しく働いたスタッフがおフィスに戻っても
空爆で家屋全体が揺れ眠れなかったそうです。そ
れでもジア先生は「Up to we can do. (やれると
ころまでやる)」と言われました。イクラムラ事
務長もペシャワールからの発送のペースを上げる
ために、夜遅くまで業者と打ち合わせをしていま
した。アフガン、パキスタン側は「やれるとこま
でやります」。日本側も大変だと思いますがよろ
しく願います。
(目黒)

一月二日(金)

前日のジア副院長の報告を受けて、更に新たに
九台のトラックがジャラバードへ向けて、午後
七時過ぎ、ペシャワールからトルハム国境へ向
かった。カッチャガレイ旧難民キャンプの前から
小雨の中、イクラムラ事務長以下、日本人スタッ
フ全員がトラックを見送り、到着確認のため、P

MS病院職員有志願者二名が同乗して出発した。

内容は小麦粉二五二トン、二五二〇家族分（二万五二〇〇人の六週間分）。今タトルハムに停泊し、明朝国境を越える。

各製粉所からの買い付け、輸送、当局との交渉などの一部始終を見れば、イクラムラ事務長の活動は精力的、かつ驚くべし。

（中村）

一月一日、カーブルに一〇月二三日から三日まで食糧配給計画で留まっていたPMS副院長、ペシャワールへ帰る。報告によれば、鬼気迫る状況。

今回のものはいわば「偵察行動」で、配給計画の実地の試みであったが、これが有効なことを確認したことが成果である。わがPMSでは、この約一〇倍量を二週間のうちに配給する。既にジャラバードに倉庫を設け、ペシャワールから国境を越えて約四八〇〇家族分、小麦約一千トンがアフガン内に送付された。さらに隔日に食用油二〇

トン、小麦二五二トン（約二五〇〇家族分）のペースで輸送が行われる。PMS病院は現在、総力をあげて輸送に取り組んでいる。

現在少数のNGO（カナダ救援基金、アラブ系組織、パキスタンの人々からの寄付）以外に食糧計画はなく、それも少量である。PMSがほぼ単独で悪戦苦闘に近い状態。厳冬を直前に、計画は本格的段階に入った。

副院長の報告によって、以下を今後の方針とした。

（１）事態は日ごとに悪化している。飢餓市民は爆撃で逃げまどい、相当な圧迫感を受けている。家族（一〇名）当たり三ヶ月（小麦二〇〇キロ、食用油一六リットル）を配給してきたが、なるべく多くの市民に行き渡らせるように、各家族一・五ヶ月（六週間分）（小麦一〇〇キロ、食用油八リットル）とする。

（２）定期的な安定輸送のため、二段階輸送方式をとる。即ち、常にジャラバードに一定量を蓄え、ジャラバードからカーブルへの



食糧を山積みしアフガンに向かうPMSのトラック

輸送量に応じて、ペシャワールからジャラバードへ補給を続ける。

(3) ジャラバードでの配給は被災地のみに限定し、ほとんどをカーブルへ急遽輸送。

(4) 第一期輸送を含め、総額一〇〇万ドルをもって、一つの区切りとする。これによって、カーブルの約半分近くの人口、五〇万人の飢餓を一時的に抑えることができる。

(5) 次の段階は、一月一六日に始まるラマザン(断食月)中の状態を見て決定する。次の選択肢がある。

・募金状況に応じて更にカーブルへの食糧補給を続ける。

・不幸にして市民の大量移動が始まる場合、ジャラバードで大規模な支援活動を行う。

・他の救援団体が殺到する場合、食糧計画の停止、水と医療関係に力を注ぐ。

(中村)

「いのちの基金」がたくさん集まっていると聞

いて、こちらでは次の展開の計画が具体的に立てられて関係者の動きに勢いがつきました。今日はもうすぐトラック九台分の小麦粉が発売します。これからは、食用油用トラック一台、小麦粉用トラック九台の合計一〇台を一回分の発送にすることになりました。

ジア副院長が、カーブルに残っている人たちの殆どが食糧に困っている状態で、その中から配給する家族を選ぶのはたいへん難しいという報告をしました。中村先生の指示で、一家族三ヶ月分だったのを一・五ヶ月分とし、できるだけたくさん家族へ食糧を届けることになりました。

昨日（十一月一日）、ジア副院長、スタッフの医師、検査技師、看護スタッフが無事に病院に帰って来てひと安心しました。またゆっくりお便りします。

（藤田）

十一月二日の朝のミーティングで、一家族当たりの配給量を従来の三ヶ月分から一・五ヶ月（六

週分）にすることに決定し、ペシャワール側は間断なく食糧を発送すること、ジャラバード側は一時備蓄し配給状況に応じてカーブルに発送すること、最優先地域はカーブルであることが確認された。

午前中、中村医師は小麦粉の製粉所を視察した。二日午後遅く小麦粉を積んだトラック九台がジャラバードへ向けて出発した。今夜はトルハムまで移動し、明朝に国境を越える予定。

今回のトラックに同行したスタッフの中に、イクラムという若い医療スタッフがいました。空爆開始後にパキスタンスタッフがアフガンに向かうのはこれが初めてです。先月半ばにジア副院長とともにカーブルでの食糧配布のための調査をするスタッフを募ったとき、彼も志願しました。その時はパキスタン人には危険な状況と判断され、イクラムラ事務長が説得して引き留めました。日頃おとなしかった彼が「自分が行く」と言い張ったのには驚きました。

今日、雨の中で集合してくるトラックにペシャ

ワール会の旗をつける彼は頼もしく見えました。作られた派手な英雄なんてここにはいません。その代わり芯の強い誠実なスタッフが活動を支えています。

(目黒)

一月三日(土)

一月二日にペシャワールを出発した第五便のトラックは昼過ぎに国境を通過した。

ジャララバードから水源確保計画のエンジニアが二人到着し、ジア副院長を交えて今後の展開を確認した。水源確保計画は一時延期、一部の地域は必要に応じて続けるが、さらに緊急と見られる食糧支援を優先し人員を配置する。

食糧配布計画ではジア副院長率いるグループと、シャラフ医師率いるグループに分け、一週間ごとにカーブルとジャララバードを交代で往復し、情報交換を密にして、カーブルの配給状況に即座に対応してジャララバードの備蓄を発送する。空爆や寒さによる避難民がジャララバードに押し寄せ

ることも考えられるので、ペシャワール側では備蓄が減った分をすぐに補給できる体制をとっておく。

ジア副院長は一月五日(月)にジャララバードに向かい、新たに倉庫を確保しカーブルへ向かう。現在契約している製粉所では在庫を持っているので、連絡して二日後には次の便を発送できる。ジア副院長の連絡があり次第、第六便の発送を行う。

(目黒)

一月四日(日)

ジャララバードのPMS水源確保事業スタッフからの報告では、第五便(一月二日ペシャワール発)の小麦粉をドロントの倉庫に運びこんだが、空爆の危険のある地域なので五日より別の場所の確保にかかる。

一〇月末に転居したペシャワールの日本人スタッフハウスでは新しい家の片付けを行い、全員でウルドゥー語の勉強を始めた。夕食はお好み焼

きだった。仕事に追われた日々が続いていた中で
久しぶりにゆつくり充実した休日でした。(目黒)

一月五日(月)

ジア副院長はすべての打合せを済ませた後、
ジャララバードに向けて出発した。ジア副院長、
他三名のPMSスタッフに、中村医師から賤別の
パトウ(毛布)が渡された。一六日に始まるラマ
ザン(断食月)の直前まで現地での活動が続ける。
カーブルの状況は逐次報告される予定。

午後遅くジャララバードからWSP(水源確保
事業)会計担当のワジールが到着、これまでの
「いのちの基金」の配布状況及び会計のレポート
を提出した。(目黒)

*パトウ…インド北部のカーブル山羊の毛を用いたツ
イードに似た織物、毛布。

一月六日(火)

一月五日午前一〇時半、第六便の食糧配布の
トラックがペシャワールのPMS病院を出発。翌
六日朝、カーブルへ向かう予定。

(1) PMSの医師スタッフがジャララバード
に留まって、ペシャワールからの荷物を確認、
カーブルへの輸送を担当。

(2) 一日トラック一〇台分(二五二〇家族Ⅱ
二万五千人分)のペースで市民に配給する。
配給能力を上げるために、チーム数を現在の
四チームから八チームにまで増やしてよい。

(3) ペシャワールからの輸送は上記をラマザ
ン前に完了。毎日小麦粉二五二トン(トラク
ク一〇台分)、食用油二〇トン(トラック一
台分)をジャララバードに送り込む。

(4) 日本人職員は、会計と報告を担当し、ジ
ア副院長とイクラムラ事務長の動きをスムー
スにする役割に徹する。食糧計画を最優先。

水源確保事業との齟齬が生ずる場合は、水源確保事業を後回しにし、全力をカーブル輸送に集中。

ジャーナリストがつめかけて一息ついたら、今度はNGOラッシュである。まるで動物園の中の動物でも覗くように、好奇の目を走らせる。中にはツアーまがいのものもあって、「薬を持ってきたが、パキスタンの団体は信用できないのでお宅に」と問い合わせがあったりする。訊けば、「難民の実情を見ながら支援する国際団体の一行」なのだそう。 「明朝は暇があるんでお話など伺うことに決めました」との話。折しも当方は、食糧輸送で殺人的な忙しさ。こちらの都合は考えないのかな。小生がやんわり断ると、不愉快さを隠さなかった。 「私どもはただの旅行者ではありません」とはツアーコンダクター氏の弁。

相も変らぬ爆撃のニュース。騒々しくも軽々しい日本の官民あげての協力。こちらの都合は考えないのかな。

(中村)

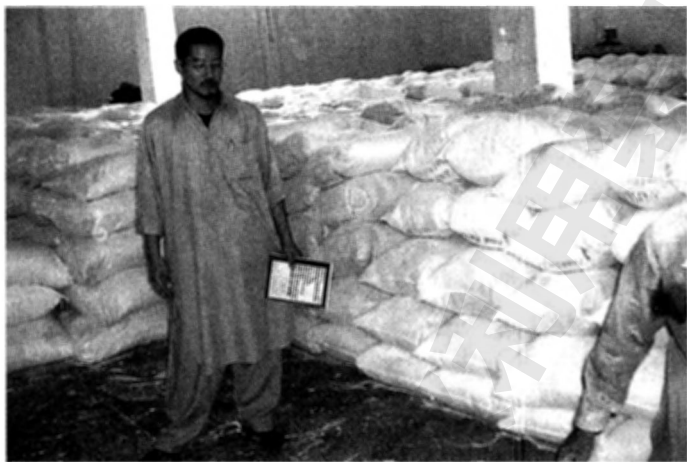
本日ジャララバードより、水源確保事業のスタッフがベシヤワールに到着。明日PMS病院にて今までの会計の精算、及び今後の会計システム等について話し合う。

アフガンより、国内の状況、食糧配布中の状況等を写した写真データが届く。日本側に送信する。明日トラック一〇台分の食糧が出発する予定になっており、今日はそのための準備に時間を使いました。明日は忙しくなりそうで、今日は「嵐の前の静けさ」といった感じの一日でした。

(PMS会計担当・中山博喜。以下「中山」)

ジア副院長からの報告には、私達も胸のこそげるような悲しみと憤りを感じ、と同時に、今こそアフガニスタンへ食糧を届ける時であり、今こそ最も医療が必要な時だと認識しました。

私達も「もうずいぶん寒くなった。何とかして、



小麦の積み出しに立ち会う蓮岡

はよ食糧を送らないかね。カーブル・クリニツクも薬が不足せんごと、ちゃんと頭に入れとかなといかね」と、ある意味で力が湧いてきました。土曜日（二月三日）の夕方、カーブルから帰って来たジア副院長は病院への報告を済ませ、翌日曜日を家族と過ごした後、昨日月曜日には、再度アフガニスタンへ向かいました。今月の中旬から始まるラマザン（断食月）前までに、できるだけたくさんの家族へ何とかして食糧を届けたいと言って、急いでペシャワールを発ちました。

昼過ぎにジャララバードに着き、食糧を一時確保できる大きな倉庫がジャララバードに見つかったと嬉しい報告をしてきました。それを受けてこちらでは、早速明日（七日）、小麦粉トラック一〇台分、二八〇トンを送送する予定です。その後すぐに食用油も送ります。こちらでは、目黒さんやイクラムラ事務長が製粉工場との交渉や運送の手配をし、ジア副院長の「送ってくれ」という要請にすぐ対応できる連携作業の良さに、思わず拍手を送りたい気分になりました。

大きな倉庫が確保できたので、これからは一日おき位に小麦粉と食用油を送れるように手配してゆきます。中村先生が、これからはますます日本ペシヤワール、ジャラバード、カーブル間の連絡を密にするようにと、念を押されました。ジア副院長のカーブル不在中は、残ったスタッフ達が食糧配布家族の調査を続けていましたので、すぐにも配布が始められるのではないかと思っています。

カーブルの五つのクリニックでは、いつもの通りに診療が行われているそうです。クリニックの一つ、ダステバルチーには、九月から勤務していたナース（看護師）の一人が帰って来ました。彼のいるクリニックは、らしい患者さんが多い所で、新患や以前どこかで治療を受けたあとの人や、治療を途中でやめた人、再発（再燃）した人などが来院していましたが、最近はその数が増えていると言っています。

明日七日、このナースは食糧運送のトラックに同乗してアフガンへ行き、カーブルの勤務に戻る

ので、足に感覚障害を持つらしい患者さん用の靴をたくさん持って行って貰おうと思っています。まだ一月の診療報告が届いていないので、正確な数はわかりませんが、彼の話によれば、クリニックのある場所によっては昼間の爆撃を恐れて家から出られずに、受診できない人達がたくさんいるそうです。またバザールでは野菜や肉、果物、日用品の数が減ってきているそうです。

このナースはパンシェーリー（パンジシェール溪谷出身）で、二〇〇一年九月に暗殺された北部同盟の司令官アフマッド・シャー・マスードと同郷人で、彼の叔父の一人はソ連とアフガン・ゲリラが戦っていた時、この司令官の側近だった人です。このナースにカーブル・クリニック勤務を伝えた時「タリバーン支配下では勤務がしにくい。もし外出したらきつとタリバーンにつかまり意地悪をされる」と拒否しましたが、他のアフガン人達に聞くと、大丈夫だから送って良いという意見が多かったので、カーブルに送りました。

私達のカーブル・クリニックが開設されてから

九ヶ月になりますが、彼はそのうちの六ヶ月間をカーブルで勤務しました。今回は四日ほどペシャワールで用を済ませたら、すぐカーブル勤務に戻ると言っています。カーブルで勤務するからといって、特別な手当など何もありません。連日連夜続く米軍の爆撃を見聞きしながら過ごしていたであろうに、何が彼をこんなに変えたのだろうかと思ひながら、彼の話を聞いていました。と同時にナーストレニー（看護学生）だった彼が、ペシャワール会がなぜ発足したかという部分を理解するスタッフの一人になりつつあるのではないかと感じられました。

ペシャワールの本院では、最近ぼつぼつと、アフガニスタンからペシャワールへ避難して来た人達が来院するようになりました。昨日は悪性マラリアで入院していたアフガニスタンの子供が、数日の入院であつという間に回復して退院して行きました。入院時から二日間くらいは高熱と頭痛、吐き気、嘔吐のために話をする元気もなく、目を開けているのがやっとで、死んでしまうのではな

いかと心配され、観察室に入れました。治療が始まって三日目には、庭で散歩している姿が見られ、昨日の退院となり、看護していた者達もこの回復力を喜んでいました。

この子供が入院して来た前日には、六ヶ月の赤ちゃんが同じマラリアで入院していました。入院時意識ははっきりせず、血管確保の為に針をさしても反応はわずかで、治療を開始し中村先生や主治医が救急蘇生にかなりの時間をかけて頑張りましたが、まもなく死亡してしまいました。この家族は二〇日前にジャラバードからペシャワールに避難して来ており、五日前からこの子供の具合が悪くなった為に他の病院に入院させていました。しかし状態は悪くなって行くばかりで、それに薬代、その他入院治療に必要な物（注射器、ガーゼ、包帯、点滴チューブなど全ての医療消耗品）を買うお金も足りなくなつて、どうしてよいか判らなかつた、と母親が話していました。

彼女は子供が死亡した瞬間、自分の怒りを何処にぶつけてよいの分らないかのように頭を左右

に激しく振り、握りこぶしで自分の膝を何度も何度も殴りつけて泣き崩れました。母親のショールにくるまれた五〇センチにも満たない小さな赤ちゃんを抱きしめて、病室を後にした家族の怒りと悲しみが私達にも伝わり、そこに居た医者、看護師、検査技師の誰も口を開きませんでした。アフガニスタンの女性や子供に教育を、と言っていたのはいつのことだったか、などとその時、ふと思いついていました。

(藤田)

一二月九日(金)

カーブルで勤務中のジア副院長からジャラバードへ食糧配送依頼があり、本日カーブルへ食糧を配布。第七便となる小麦粉一四〇トン(トラック五台分)と食用油二〇トンを配送した。明日一〇日も小麦粉三三六トン(トラック一二台分)と食用油二〇トンを配送する予定。カーブルのジア副院長とペシャワールで直接連絡をとるのが困難なため、配布状態は今の所よく分からない

が、明日ジャラバードからカーブルへ向かうトラックに同乗するスタッフが、近日中にペシャワールへ帰ってくるので、詳しいことが報告される。

昨日(八日)、ペシャワールを出発した第六便小麦粉一〇台(二八〇トン)、食用油一台(二〇トン)はジャラバードに到着したと報告あり。また、本日早朝送り出した第七便食用油二〇トンも無事にジャラバードに着いた。

これまで使用していた二製粉工場との契約が切れるため、昨夕、イクラムラ事務長が契約の更新を交渉した。その結果、一つの製粉所とは小麦粉一キロにつき二〇パイサー(約〇・五円)の値上げで六七二トン(トラック二四台分)を確保し、一日にトラック三台分の配送が可能で、もう一つの製粉所も同額の値上げで二〇一六トン(トラック七二台分)を確保し、トラックの配送は一日八台から九台分可能とのことで契約を更新した。二つの製粉工場が予定どおりに一日にトラック合計一一台から一二台分を出せるようであれば、製油



米軍の空爆で死亡した家畜

工場とも交渉して契約を取りつける。そうすれば計画より早いペースでカーブルへ食糧が運び込めるので、明日からこの仕事に取り掛かる。

今日パキスタンはイクバルデーという休日だが、イクラムラ事務長は製油工場を探し、交渉を行う。パキスタンで米国支援をする政府に対し大規模なストが予想されているため、日本人ワーカーは外出を控えたので、本当の意味での休日となった。

次回第八便のアフガニスタンへの食糧輸送は、小麦粉二八〇トン（トラック一〇台）食用油四〇トン（トラック二台）で、一〇日ペシャワール発、一日アフガニスタン入りとなる予定。（藤田）

一一月一〇日（土）

一一月八日

・小麦粉…トラック六台分

（二六八トン、一六八〇家族分）

・食用油…トラック二・五台分（五〇トン）

一一月九日

・小麦粉…トランク五台分

(一四〇トン、一四〇〇家族分)

・食用油…トランク一台分 (二二〇トン)

一月一〇日

・小麦粉…トランク一一台分

(三〇八トン、三〇八〇家族分)

・食用油…トランク一台分 (二二〇トン)

ジャラバードからカーブルへの発送は以下の通りになっています。

*より広く配布するために、一家族一〇人の六週間分が一単位、小麦粉一〇〇トン、食用油八リットルに
改変 (藤田)

一一月二一日(日)

皆さま、ご苦勞様です。連日の努力、敬服します。おかげで初期の見通しが立ちかけてきたようで、うれしいです。何よりも、純粹の厚意が大規模な形で実を結ぶことが、愉快な気がします。どこかいびつな主流からは見放されているようです

が、これだけ「まだ捨てたものではない」良心的な人々が日本にいたことを思うと、心が温まります。現地は確かに大変ですが、頑張りましょう。これまでのまとめを送ります。

第一次アフガニスタン支援計画の実績と見通し

一月に入って試行と調査を完了、食糧配給計画はいよいよ本格的な段階に入った。一月九日にはPMS病院の指導的メンバー(医師、看護師、検査技師)をカーブルに急派増員、配給能力を上げると共に、ベシワール側では、イクラムラ事務長や藤田看護部長以下、現地・日本人スタッフ総出で買付と輸送に全力をあげている。現在、WFP(世界食糧計画)は「危険地域」を避けているし、国際赤十字は戦争被災民に援助を限定せざるを得ない。カーブルは最大の旱魃(かんばつ)避難民を抱えるにもかかわらず、カナダ救援基金、パキスタン・アラブ系NGOからの救援物資が少しずつ届いているのみである。PMSからの補給が断たれれば、市全体が危機



食糧を背に家路を急ぐ子供たち

的となる。

一〇月二日から十一月一日現在、これまでアフガニスタンに搬入された量は表1の通り。

このうち実際に配給された量は表2の通り。

厳冬と戦火の迫る現在、今後さらにピッチを上げ、十一月二日までに以下を急送、カーブルで配給する予定(表3)。

これは大型トラックで一〇台分の量になるので、毎日休日返上で一五〜二〇台がアフガニスタン内部に送り込まれる。総費用は五六二一万ルピー(約一億一二四二万円)で以上の第一次計画を完了する予定。最終的に、総計小麦粉四四八〇トン、食用油三八万リットル、四万四八〇〇家族(約五〇万人)が一ヶ月半飢えをし、断食月明けを無事に迎えることができる。

これは現在のカーブル市民の半分に迫る数字だから、市の全体が少なくとも当分、餓死と栄養失調を免れる。勇敢な吾がPMS職員に支えられ、計画は着々と実をあげつつある。これは日本国民の良心の壮挙である。感慨を禁じ得な

表 1

小麦粉	1,400トン	約 14,000家族	1.5ヶ月 14万人分
食用油	14万リットル	約175,500家族	1.5ヶ月 17.5万人分

表 2

カーブル市内	小麦粉 978.8トン	食用油 11.8万リットル	9,780所帯、9.7万人
ジャララバード 爆撃被災地	小麦粉 52.4トン	食用油 4,192リットル	262所帯

表 3

小麦粉	3,080トン	約30,800家族	1.5ヶ月 30.8万人分
食用油	22万リットル	約31,000家族	1.5ヶ月 31万人分

いと共に、心からの感謝を述べたい。

なお、「PMSの存在の割にニュースにならない」との声が一部にあったが、国際的な方策、「報復爆撃」大量難民発生と支援」の筋書きに異を唱えたと取られる場合は、無視されるのが普通である。一二年前の「アフガン難民帰還計画」の大騒ぎの時も同様であったから、紙上の評判を気にする必要はない。宣伝上手な機関は、話題性がなくなれば何れ去って行く。

第二次計画

カーブルを取り巻く戦況、政情の変化によっては、次の援助策として以下を考慮する。何れにしてもPMSの堅持する方針は、

(1) 国連や各国NGOが殺到すれば、これに参加せず、彼らに任せる。

(2) より困窮していながら誰も手をつけない場所に力を注ぐ。

(3) 各国政府や国連がゆき届かぬ部分を担

う、NGOとしての節を通す。

米軍Ⅱ北部同盟がカーブルに平和進駐する場合、WFP（世界食糧計画）、各国NGOや政府援助が殺到するだろうから、主な活動地を東部に注ぎ、爆撃被災地の食糧援助や水源確保、医療活動に精力を投入する。

不幸にして戦乱でカーブルに大混乱が起き、大量避難民がジャラバードやペシャワールを目指す場合、これをできる限り東部で迎え撃つ態勢をとり、食糧配給のみならず、ドラエヌール診療所を拠点に医療チームを編成、総合的なケアを目指す。

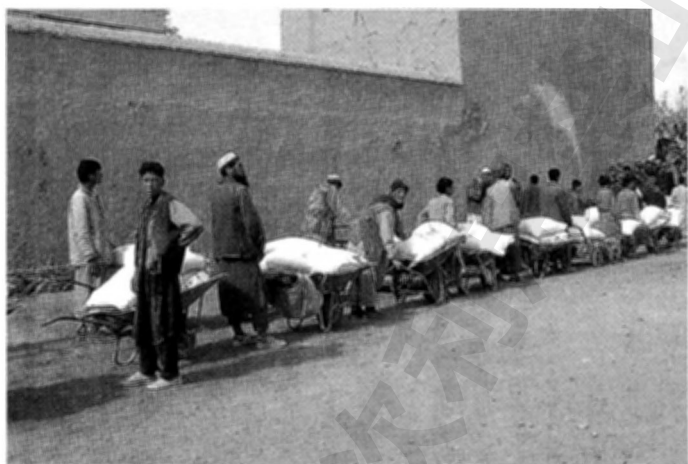
カーブルが輸送可能な状態で米軍Ⅱ北部同盟の進駐がなく、WFP（世界食糧計画）が近づく場合、PMSは更に同量の食糧支援を行ない、カーブル市民の越冬を可能にする。又は、他の団体による救援で飢餓が遠のけば、衣類や毛布の配給を行なうことも考慮する。

アフガニスタン中が混乱して収拾がつかず、パキスタン側へ大量難民が発生すれば、PMS

病院（ペシャワール）に立てこもり、診療の質と量を高めて、医療支援に集中する。

*付記……従来のPMSカーブル診療所の活動は、一月一日現在、平生どおり行われている。カラエ・ザマン・ハン、ダシユテ・バルチー、ラフマン・ミナ、カルガ、チェヘルストン、五つの診療所は何れも健在である。四七名の職員のうち、医師一名がペシャワールに逃げたが、他の者は全て献身的に診療に尽くし、極貧の市民たちを励ましている。診療数は何れも外来一日一〇〇〜一五〇名前後。（中村）

今日（一一日）、ペシャワールから送り出した第八便の小麦粉トラック八台（二二四トン）と食用油トラック二台（四〇トン）がたった今ジャラバードに到着しました（アフガニスタン時間の一六時です）。このトラック一〇台は今日早朝出発のために、昨日の夕方までにいつものようにカッチャガレイのトラック停車場に集まる予定でしたが、ペシャワールから約三時間離れた所にあ



配給現場では混乱が予想されたが……

る製油工場からの食用油の輸送がたいへん遅くなり、二二時になってもまだ到着しませんでした。食用油が着いたら別のトラックに積み替えなくてはならなかったので、病院スタッフが布団持込みで積み替え場所待たつことになりました。

それでも無事に、またこちらが予想していたよりも早くジャララバードに到着して安心しました。昨日一〇日のジャララバードからの連絡によると、ジャララバードの倉庫には食用油五三八缶（八六〇七キロ）、小麦粉二三七三袋（六万八六五〇キロ）の在庫になっています。

一月八日より、ペシャワールから少なくともトラック一〇台（二八〇トン）の小麦粉、食用油一台（二〇トン）を毎日送るようにしています。

中村先生の指示にあるように、アフガニスタンの状況の変化を考えると、もっと量を増やしスピードアップした方がいいので、イクラムラ事務長に伝え準備します。

昨日のカーブルからのジア副院長の話では、ペシャワールからの助っ人（PMSスタッフ）が来

たので食糧の配布作業に勢いがついたようです。カーブルの倉庫に食糧を確保する計画は何か問題があるようで、ジャラバードからカーブルへ三日間続けて輸送した食糧を配布し終わるまで、カーブルへは輸送しないようにと指示がありました。その間にペシャワールからジャラバードの倉庫にはどんどん送り届けます。思わぬ助っ人達の出現に一番喜んだのはジア副院長と、三月のカーブルの臨時診療所オープン以来、一度もペシャワールに帰らずに勤務を続けているナース（看護師）達だったかもしれません。スタッフ達の無事をお祈りください。

このメールを書き終えている所に、PMSのアフガン人の医師で、八月からイギリスの熱帯医学校に留学中のドクターより電話がありました。アフガニスタンのことをたいへん憂えて、カーブルやアフガン東北部の三つのクリニック、ジャラバードの井戸掘りのこと等をたいへん心配していました。そんな中で、食糧配布や診療を続けている中村医師やペシャワール会の方達に、とても感

謝していることを伝えてくれるようにと繰り返し、繰り返し言っていました。
(藤田)

一一月二日（月）

カーブルで食糧配布を行なっているPMSスタッフから連絡がありました。電話局では電話をかけるためにたくさんの方がまわりにいて、詳しくは話せないようでした。ジャラバードの倉庫からカーブルへ三日間連続で食糧を送ったのに追加して、今すぐ再度送った方が良いかを尋ねると「ノー、ノー、ノー」という返事が返ってきました。明後日（一四日）まではこれまでカーブルに送った食糧を配布するとのことでした。

こちらではジャラバードの事務所と連絡を取りながらたくさん的小麦粉や食用油を送り続けます。今日は、他の製粉所より一キロあたり〇・一五ルピー高いのですが、一日に四〇〇トン（トラック一四台分）の小麦粉を出せるという製粉所が現れ、これが必要になった時にはいつでもすぐ

に、ジャララバードへ大量に送れるようになりました。

今日は、明朝ペシャワールを出発してアフガニスタンへ向かう第九便の小麦粉と食用油の積み込みをしています。目黒さんは支払と明日トラックに乗っていく病院のスタッフとの打ち合わせや、スタッフと製油工場へ積荷確認に、藤井さんはバザールの両替屋へ、中山さんは病院の会計で皆元気に走っています。

一六時少し前に、カーブル・クリニックで働いているPMSナースから電話がありました。最近の北部同盟の勢いに、カーブルではタリバン兵士や住民達がエキサイトしているのかと想像して心配をしていましたが、静かだいつもの通りだと話していました。

(藤田)

一一月二三日(火)

*カーブルからタリバン撤退

本日夜にカーブルよりジャララバード経由でペシャワールに戻ったジア副院長の報告。

昨日一二日は、夕方六時過ぎまで食糧配布を行い、トラックの借り賃を支払い終わったのが午後八時だった。タリバン兵が来て今夜はあなた達にとって良くないことが起こるだろう、気をつけよと忠告をした。午後八時過ぎからすさまじい爆撃がカーブル市内で行われた。スタッフが寝泊りしていた事務所の数メートル四方にも六発の爆撃があり事務所がぐらぐら揺れた。煙の中をくぐり抜け避難した。スタッフは皆無事だった。

明けて今日(二三日)ワジールアクバルハーン(クリニックからすぐの所)が爆撃されたので、スタッフは緊急避難した。クリニックのスタッフと会議を開き、まだ配り終えていなかった小麦粉と食用油の残りを保管する私有の倉庫を探して、八つの小さな倉庫に入れた。

PMSの五つのカーブル・クリニックでは、カーブル在住のスタッフはそのまま活動が続けることを希望。ペシャワールから派遣している三名のナース(看護師)も自発的に残り勤務を続行。前夜よりカーブルからタリバンが撤退しているこ



タリバンの青年兵たち

とが判り、パシュトゥン族系住民の殆どが他の地へ移動し始めた。タジク系とハザラ系の人たちはカーブルにそのまま残っている。住民はターバンを脱ぎ髭をそり落とし、ある者はブルカを脱ぎ、ある者はシャルワルカミースを脱ぎ洋装に変え始めた。その後国連やNGO、赤十字などの倉庫を開け援助物資等の略奪を始めた。

今日（一三日）午後二時頃、北部同盟はサロビ（カーブルに入る渓谷の入り口）をおさえ、カーブルとジャララバードの幹線道路を封鎖し、それからカーブルへ入った。その少し前に、ジア副院長と食糧配布活動をしていたスタッフ二〇名は、クリニックや食糧配布計画のアレンジを済ませカーブルを出た。危険を避けるためPMSの車輛三台に分乗しジャララバードへ向かったが、車輛一台が途中武器を持った住民に略奪された。カーブルからジャララバードへ向かう車を空からヘリコプターが銃撃し、ジア副院長達は二十数台がやられてゆくを見た。まるでヘリコプターがゲームをしているように見えた。ヘリコプター

が来るとジア副院長達は車から降りてターバンや帽子を脱ぎターバンではないことを表現した。

路上にはたくさん死体があったため、車から降り遺体を道路脇に寄せながら前進してジャララバードにたどり着いた。ジャララバードの難民キャンプ（タリバンが国内難民のために設置した）にはカーブルからの避難民が押し寄せている。今日中に北部同盟がジャララバードに来るのは確実である。

ジア副院長達はカーブルへ行く前に“*We do up to we can*.”（やれるところまでやる）と言ったとおりに、連日連夜米国が爆撃を続けるカーブルでぎりぎりの時まで食糧配布活動続けた。

一日夕方五時トルハム国境へジア副院長一行を迎えに行ったイクラム事務長の手助けで、無事に国境を越え午後七時病院へ着いた。（藤田）

ご承知のように、去る一月一日にカーブルが北部同盟によって占領され、アフガンの政情は

ますます混乱を加えています。会員の皆さまの中には、「今後のペンシャール会の活動はどうなるのか」と不安に思われる向きもあるようなので、私たちの今後の計画についてお知らせ申し上げます。

まず、いかなる権力交代、政情変化があっても私たちの基本的方針はいささかも変わらぬことを言明致します。この一八年間、さまざまな闘争や権力の変遷がありました。アフガンの人々に密着した活動には決定的な影響がなく、少しずつ拡大発展してきたいきさつがあります。今回の政変は、過去の動乱のひとつですが、「いのちの基金」はこのような混乱期であればこそ、日本国民の良心を示す力として有効に活用して参ります。とはいえ、戦場に等しい状態で吾が職員を危険にさらすことを避けるため、多少の修正はやむを得ないと判断されます。当面、以下を実施いたします。

(1) カーブル情勢は混沌として、先の見通しが立つまで今少しの時を要する。また、国民

の半分以上を占める多数派民族、パシュトゥン系の人々が虐殺を恐れて東部へと移動している。大半はラグマン州やジャラバードに移動中である。カーブルには食糧をはじめ、豊富な物資が各国政府や国連団体から入る可能性が強まったので、食糧配給の重点をこれら迫害から逃れてくる貧困な避難民に置く。現在ベシャワールで買付け・輸送を準備していた残り約三五〇〇トン^{かんばつ}を、あわせて旱魃地帯や爆撃被災民と共に、これに配給する。

(2) 東部の旱魃地帯でベシャワール(パキスタン領内)への難民を出さぬ努力に全力を投ずる。即ち、農業および飲料水源の確保事業。既設のPMS(ベシャワール会医療サービス)各診療所を拠点とする医療活動の充実。

(3) ベシャワール会PMSは翼賛団体ではない。各国NGOや国連機関とは協力関係を保ちつつも、援助ラッシュには基本的に参加せず、より困窮する地域と人々に対し、長期的展望で有効な支援を続ける。ニーズは無限

大であるが、「いのちの基金」は末永く日本国民の自発的な良心の力として実事業に投ぜられる。政治や宗教的立場を超え、真に良心的な復興・救済事業をアフガン住民、なかなく軽視されやすい弱者を重視して進めてゆく。日本の募金者に実績を定期的に報告する。具体策は、ここ数週の動きを見ながら決定し、第二次計画の実施に移る。(中村)

一一月一四日(水)

昨日(一三日)、午前一時ジャラバードより連絡があり、北部同盟がサロビに來ている、ジャラバードの住民は去り始めた、今朝ベシャワールからジャラバードへ出発した第九便の食糧輸送中のトラックを引き止めてほしい、ジャラバードの事態が悪化したら私達もソルフロッド郡へ避難するので、もしトラックが無事にジャラバードに着いたとしても、ここで荷を受け取り荷降ろしをする人がいない可能性がある、と言う。

急いでイクラムラ事務長が、今日（一四日）の輸送トラックの国境通過の手続きのためトルハムへ出向いている事務スタッフに連絡を取ったところ、ちょうど全トラックがトルハムに着いていたところだった。

病院では引き返してくる小麦粉一九六トン、食用油二〇トンと、もう既に積み込みを始めていた翌日（一四日）輸送予定の第一〇便小麦粉二八〇トンと食用油四〇トンを保管する倉庫を、ペシヤワールに確保することが急遽必要となった。イクラムラ事務長が倉庫関係者に連絡を取るが、運悪くか良くか全員が電話使用中でコンタクトできなかった。そこで各製油、製粉工場へ事情を説明して相談をした。どの工場も快く承諾し、全トラックが工場へ戻った。

翌日（一四日）輸送予定の食用油を積んだトラックはペシヤワールで積み替えをする必要があるため、もう既に工場を出発し積み替え所へ向かっていたので、夕方ペシヤワールに着いたトラックを病院へ誘導しPMSの外来待合室に保管。

昨日（一三日）夕方カーブルから無事に病院へ帰って来たジア副院長の報告を受けられた中村医師の指示で、数日間アフガニスタンの情勢を見てから対策を立てることになった。ジャララバードの倉庫に約三五〇〇家族分の小麦粉と約六千家族分の食用油があるが、必要な時にはすぐにペシヤワールから輸送ができる態勢。

ジア副院長と同行していたスタッフは昨日パキスタンへ向かう途中、カーブルや他の地から避難して来た人たちがひしめき合っているキャンプを目撃した。ジャララバードがやや落ち着いたらすぐアフガニスタンに入り食糧配布をやる、と話す。アフガニスタン内でゲリラ戦が絶対に起こらないように、そして冷え込みが刻一刻と厳しくなる中、一日も早く水と食糧が必要な所へ届けられるように祈りたい。

（藤田）

一一月一五日（木）

現地の状況は刻一刻と変化するため、できるだけ

け新しい物を受けたときにすぐに送るように努力していきます。以下情報を報告します。

ジャララバード市内は、一月一四日早朝より、グラエヌールを元々支配していた、パシャイー部族とハジ・カディール部隊が少数の部隊で進撃し、既に住民に混じって侵入していた部隊と合流し、市を無血奪還した。タリバン部隊は一二日の時点で撤退を開始していた。

一五日の朝九時の報告によれば、町は、バザールの店は全て閉じて、人々は家に閉じこもっている。普通に歩けるが、治安の責任者の所在がはっきりしていないため、略奪が起きる可能性がある。(PMSの)活動は一時停止。一二日の夜に車輛を要求する一団が来たが、PMS水源確保事業のエンジニアが追い返した。

パシャイー部族のハザラット・アリと、ニングラハル州一帯の実力者であるハジ・カディールはタリバンの東部一帯の責任者であるモリー・アブドゥル・カビールと会談し、タリバンの平和的な撤退を求めた。これに対しタリバンは戦闘による

解決を避ける意向の発言をしたとのこと。これ以降にヒズビ・イスラミの代表者の一人、モリー・カリスを中心にシェーラ（評議会）を結成、全部族統合のロヤ・ジルガ（族長大会議）が開催され、「タリバン部隊の即時解散。ニングラハル州出身者でないタリバンに関しては即時州外へ退出。ニングラハル州内への北部同盟軍の侵入禁止」等の決定がなされた。

一五日一一時より、前日よりペシャワールに報告に来ていたPMS水源確保事業スタッフがジャラバードへ向かう。午後六時頃ジャラバードより連絡あり。「国境はパシャイー部族のハザラット・アリの軍隊により奪還さる。アリ側国境警備隊司令官とPMS水源確保事業スタッフが会談。今後PMSの活動を全面的に保障。氏の車に便乗し事務所まで帰った」とのこと。

現在食糧倉庫はパシャイー部族の兵隊二名が警備。市内の主だったNGOオフィスにも一、二名の警備がついているとのこと。意図は本人らも知らない様子。

水、食糧計画とも一八日まで活動停止。好転した場合でも一九日より作業開始予定。

以上。更に連絡があれば随時報告します。

(連岡)

一二月一六日(金)

カーブルでジア副院長らとともに食糧配給作業をしていたPMS薬局長の作業状況レポートが届きましたので送ります。

「配給日、たくさんの方が小麦粉と油を積んだトラックの周りに群がっていて、大変だろうと想像していたが配給場所を見て驚いた。ある所では住民が一行に並んで順番を静かに待っており、他の所ではトラックの近くに沢山集まっていたが、騒動は全く起こらなかった。配給カードとその持ち主を確認する所と食糧を渡す所をやや離して設置したこと、食糧を貰う人とそうでない人との争いが起きないように、配給する場所を受給者達の地区から離れた所に準備したこと、配給作業を行

なったスタッフの多くが水計画のジャラバード出身者達だったので、親戚や顔見知りがある地区にあまりおらず、平等に作業が進められたことが良かった。

北部同盟がわずか数キロメートルまで来ていると毎日毎時ニュースを聞きながら、結局最後の配給日となった一二日(月)は、どの家族に配るかというと調査と配給を同時に行なった。そんな中でも騒動は起こらなかった。」

彼やジア副院長はタリバンの人達の協力なしにはこんなにスムーズには作業ができなかったと話します。

「最初の計画通り、スタッフ達は配給を受ける家族の調査を平等にするために、カーブル市を東西南北に分けて調査を行った。それでもスタッフ達は自分達の安全を守るために、人口の多い部落の住む所を先に調査した。タリバンはこの配給計画は本当に貧しい人の手元に食糧が届いていると協力を惜しまず、また、毎晩スタッフが寝泊りしていた事務所に出向いて何か困ったことはないか

等と尋ねていた。

毎晩爆撃の中にいた若いスタッフの体調が悪くなったので、ペシャワールへ連れ帰るために一二日の配給作業が終ってから夕方カーブルを立ち、夜中の三時にジャララバードへ着いた。ジャララバードでは、夜中に二〇人の住民達が国連関係の倉庫にある援助物資を狙っていたところ、門衛がタリバンに通報し即座に逮捕されていた。」

移動診療のコーディネーターでもあるPMS薬局長は、クリニックのスタッフ交代時に薬品を各診療所に届け、クリニックの状況を観察するために、毎月アフガニスタンへ入っていてタリバンとも接触していました。これまで彼はタリバンのことを悪くも言わないし褒めもしませんでしたが、今回は「タリバンの協力がなければあんなにスムーズには行かなかっただろう」と繰り返ししていました。他のスタッフも同じことを言っています。

彼等が一日(火)夜中三時にジャララバードに着いたその明け方に、ジャララバードでは

「ラーガレイ、ラーガレイ」(来た! 来た!)というさげび声と共に、いっせいにバザールの店が閉められ、住民はお互いにお互いを恐れあい発砲する住民もいたそうです。

ジャララバードはその後混乱が始まり、車を持つものは車で脱出したそうです。ジャララバード水計画事務所から連絡を受け、既に早朝にアフガニスタンへ向けて出発していた食糧運送トラックを国境のトルハムでストップしました。

一日(水)朝、ジャララバードをパシャイ族のハザラット・アリが一時的に掌握しました。ハザラット・アリはPMSのグラエヌール・クリニックのある村の出身で、クリニックを開く時からのスタッフの知り合いでもあり、時々クリニックへも来院していました。

ジャ副院長がジャララバードにいるハザラット・アリの部下に電話をし、PMSの山岳地での医療活動や井戸掘りや今の食糧配給活動のことを説明して、PMSの事務所や食糧倉庫の管理をしてくれるように、またハザラット・アリにそのこ

とを伝えるようにと話しました。ちょうどジャラバード事務所からペシヤワールへ職員が来ていたので、その職員と一緒にハザラット・アリと同じドラエヌール出身のナース（看護師）をジャラバードへ送りました。またもう一人、ドラエヌール出身者で、現在は目黒さんの片腕としてドラエヌールで井戸掘り活動の責任者をしている検査技師もジャラバードに向かわせましたが、彼はドラエヌール地区では宗教的地位の高い家系であり、ハザラット・アリとも知り合いで、何しろ彼らはパシヤイー族が話す言葉が話せ、一〇年以上ペシヤワール会の活動をしているので、実情をしっかりと説明できるだろうと期待しています。

今日一六日（金）には、ジャラバードを治めようとしているハザラット・アリ達のグループの中でも分裂が始まっているとか、バーミヤンから武装したハザラ族一千人がカーブルへ来て、北部同盟が外務省、内務省と防衛省のポストを取ったことに対して抗議している等、いろいろな情報が入ってきます。

こんな騒動の中アフガニスタンではラマザン（断食月）が始まりました。寒さと空腹と病気にさいなまれている人達が忘れられているような気がしています。弱い者いじめをして何が楽しいのかと感じます。今までの政権が圧制を敷いていたとしても、食物や飲む水、住む家がないよりはその方がずっといいのではないのでしょうか。それともこれからの発展のために犠牲者が出るのは仕方がないのでしょうか。

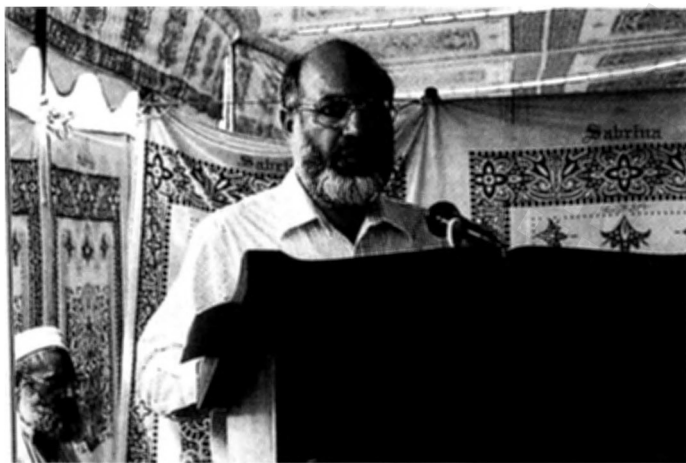
（藤田）

一一月一九日（月）

中村先生

ご存知のとおり、私たちのチームがカーブルから戻って来ました。彼らは、十一月一〇、一一、一二日に、下記のようにカーブル周辺で食糧を配布しました。カーブルの第二期配布において、一月一〇日―一二日までの間に恩恵を受けた家族総数は四六五五家族です。

タリバンは十一月一二日にカーブルを撤退し始



PMS イクラムラ・カーン事務長

めました。私たちのチームは一月一三日にカーブルを離れ、北部同盟軍がカーブルに進駐してきました。カーブルを出る前に、ジア副院長が残りの配給用備蓄をカーブル市内のガレージに保管、施錠し、地元警備隊に引き渡しました。

私たちのグループがカーブルを離れる途中で、小型トラックの内一台が武装グループにより強奪されました。また、マツダの軽トラック一台も、ペシャワール会グラエヌール診療所から武装グループによって強奪されました。これまでにギール（水牛・牛の乳から作られるバター）二五箱もPMSのジャララバード倉庫から略奪されました。現在のところ、PMSジャララバード事務所、スタッフハウス、倉庫を安全に管理するために、地元長老ハザラット・アリ氏に引き渡しています。アフガニスタン、特にジャララバードにおける現在の不安定な状況から見て、静観することに決めました。いずれかの党派又は指導者がジャララバードの全面的支配権を握り次第、ジア副院長がジャララバードに向かい、私たちの食糧配給計画

を容易にするよう支配者と話し合うことにしています。これまでのところ、ジャララバードで支配権を握った党派は一つもありません。本日の報道によれば、パンジシェール地方の党派数人もまたジャララバードに入ったとのこと。地元党派は会議を開催していますが、これまでのところ結論はでていません。これらの会議が失敗すれば、おそらく無法状態となり、ジャララバードにおいても内戦が始まることになるでしょう。

しかし、ジャララバードからゴースサインがであれば、二四時間以内にジャララバード向け配給分を発送する準備ができています。また、私は、PMSの車輛を安全に管理するために、パキスタン側に運ぼうと努めているところです。少なくともこれらの車輛はジャララバードでは使用していません。最近はこの支配党派も車輛を略奪してしまっからです。

現在、国境は閉鎖されており、車輛はアフガニスタン内には入っていません。救援物資を積載したトラックのほとんどが国境のトルハムで足止め

をくっているか、ペシャワールに戻ってきています。

スタッフ一同より。

(PMS事務長イクラム・カーン。訳…ペシャワール会事務局)

ジャ副院長は昨日(一八日)、アフガニスタン東部の知事が前州知事ハジ・カディールに決まったことを知り、今週の木曜日から金曜日にはジャラバードに入り、食糧配給ができるかどうかを見にいけると喜んでいました。ところがジャラバード事務所と連絡をとると、ジャララバードではタリバン撤退後に一番乗りしたハザラット・アリ派が幅をきかせており、またシェーラ(評議会)で Security Chief of the Province Bordering Pakistan (パキスタン国境州警備隊司令官)の地位を得たハザラット・アリが、彼の派以外の派は武器を持ってジャララバードへ入ることを許していないので、新しく州知事になったハジ・カ

ディールも今は全く力がないそうです。

そのハザラット・アリ配下の者はジャラバードで略奪をしている様子。PMSの食糧倉庫と事務所にもずっと詰めています。今日はハザラット・アリが車輜（ピックアップトラック）三台に積めるだけの小麦粉と油を奪って行ったそうです。ジャラバードの事務所に詰めている同郷のPMSスタッフが、ハザラット・アリの所へ苦情を言いに行ったそうですが、ただ笑って取り合ってくれなかったそうです。

その後ハザラット・アリと同じ派の人が「ハザラット・アリが食糧を持ち出すことを自分が防いでやるから小麦粉を一〇〇袋くれ」と言ってきた。ペシャワールからはスタッフの生命が危険な中にあるので要求されることを断らないように指示しています。

カーブルでは昨日（二八日）、五年ぶりにテレビ放送があつて、今の所、一日に三時間だけの放送だが、これから二四時間放送するようにしていくと、ニュースに出ていました。アフガニスタン

でどのくらいの方がテレビを見ることができて、どのくらいの方が寒さと空腹に困っているのだろうかと考えてしまいます。

以上のような状況で、ジア副院長のアフガニスタン入りは暫く見合わせるようになりました。

（藤田）

一月二〇日（火）

昨夜、ペシャワールからアメリカ人五、六人がアフガン・メディアのグループを連れてジャラバードへ入りました。今日（二〇日）にはカーブルよりラバニ（前首相）が外務大臣を連れてジャラバードに来ることになっていたそうで、ジア副院長は何かの会談が行われたのだろうと言っています。

アメリカ人達に同行したアフガン・メディアの人がジア副院長の知り合いだったので、彼に頼んでジャラバードで幅を利かせているハザラット・アリにジア副院長からのメッセージを持って



空爆に備え積み上げられた土嚢

行ってもらいました。今日のジャララバードとの連絡では、そのメディアの人がメッセージを伝えた後ハザラット・アリのPMSのスタッフに対する態度ががらりと変わり、突然協力的になったそうです。

昨日ジャララバードからベシャワールへ帰って来た水計画のスタッフの話によると、

「ジャララバードの住民は家を守るのに各家族一人残り、後の家族は安全な所へ避難している。バザールは開いていたいへんなラッシュで大繁盛である。ハジ・カディールとハザラット・アリの間に目に付く争いごとは今のところない。ジャララバードの近くにあるサルシャヒー難民キャンプは避難していた人達の約半数がいなくなったので、多分カーブルや自分の村へ帰ったのだろう。キャンプでの食糧配給は行われていない。米軍によるニングラハル州への空爆は続けられていて一般市民が死亡している。アラブ人で家族を残して戦いに行っている者がいて、その家族（アラブ人の女性や子供）が物乞いをしている。PMSのグラエ

ヌール・クリニックは特に問題なく安全に活動が続けられている。」

以上です。蓮岡さんから詳しい情報が入ると思います。

(藤田)

中村先生

アフガニスタン情勢は依然としてはつきりしません。トップレベルの大きな混乱が続き、主要都市・町の掌握や地位をめぐる争いが依然として進行中です。ハジ・カデイルがジャラバード知事に任命されたとはいえ、実質的には権力は依然としてハザラット・アリにあります。アリは事実上ジャラバードを掌握、支配しています。ジャラバードでは地元住民の姿はどこにも見えず、ハザラット・アリ配下の武装集団であふれており、市内の主要な場所では略奪を始めています。

これまでのところハザラット・アリ派から支援と安全確保の約束を得てはいますが、実際は何も実現されていません。ジャラバードの状況は依

然として不透明です。どれぐらい続くのか、我々はただ待つのみです。略奪集団が警備団になりました。アフガニスタンの無辜の人々を神様がお助けになりますように。

(PMS事務長イクラムラ・カーン)

一一月二三日(金)

朗報とするのは少しあせりすぎかもしれませんが、今日以下のように。

ジャラバードのPMS食糧倉庫からハザラット・アリ配下の者や他の武装した者が食糧を奪つたために、PMSのスタッフが何度もハザラット・アリに直接訴え出たところ、昨日彼自身が私達の倉庫に「これはハザラット・アリがロックした。これから先ここを開ける者は私に連絡するように」という張り紙をして封鎖しました。今朝の連絡では昨日から私達の事務所と食糧倉庫からは何も奪われていません。

ジャラバードにはまだ北部同盟以外の部族が

大勢いて、皆、二六日からドイツで始まる復興会議の結果を待っている所だそうです。もしハザラット・アリがPMSの食糧配給活動に協力して安全を保障してくれるなら、サルシャヒー難民キャンプやロダット地区にあるキャンプへ食糧配給を始めようということになりました。

今日は水計画（水源確保事業）のスタッフと病院のナースが一人ジャララバードへ向かいましたので、ジャララバードにいるPMS医師スタッフにハザラット・アリに交渉してみるように手紙を預けました。

またベシヤワールからカーブルへの連絡が取れないので、ジャララバードから使いを送るか電話連絡をしてカーブルの方から定期的に連絡をするように話しました。今日、スタッフハウスの門衛が休暇をとりカーブルの家族の元へ帰るので、彼にも、カーブルに勤務するナースに必ずベシヤワールへ連絡をするように伝えました。

もしカーブルから連絡が来た場合は、カーブルの事務所で勤務しているジア副院長の兄よりユヌ

ス・カヌニ（北部同盟の内務相）に食糧配給の説明をして、安全が確保できたらカーブルでの配給を再開しようということになりました。

もしこれが上手く行ったなら、カーブルからジャララバードの途中にある危険地区のサロビの安全を確保して、ジャララバードから食糧運び込めるかもしれないとジア副院長は話していました。カーブルからの連絡待ちなので、まだ朗報とするのは早いと思いますが、少し道が開けたような感じがしました。

（藤田）

現地から昨日（二二日）夜連絡があり、今朝再確認した事項。

—— 一月二二日夜九時頃、ジャララバード事務所にハザラット・アリ配下の一団が押しかけ、事務所にあった食用油五〇缶を略奪していった。事務所にはPMS水源確保計画のエンジニアが数人いたが何もできなかった。

二二日早朝よりハザラット・アリにコンタクト

をしてアリ自身より再度警備保障書のようなものをもらう。この時に、前に彼らによって持ち去られ、現在アリの事務所で使われている車輛二台の車輛証明及び関係書類を預かる。

二三日朝一一時にPMSスタッフ一名がジャララバードへ向かい、事態の收拾を手伝う。現地の状況は、日に日に落ち着きを取り戻しているが、ハザラット・アリの軍隊は前と同じように町をコントロールしているとのこと。ロゲット郡では、旧ムジャヒディン・ゲリラの長老達が政府庁舎に集まり行政を行なっている。現在の暫定的代表者はいずれもPMSの活動を保護していた人間なので、問題はないと彼らより報告があった。またアチン郡でも同様で、住民代表は早期の作業開始を求めている。

ペシャワールで発注した一六インチ器械ボーリングはほぼ完成。現地に送る手配も問題はなく開始できる見込み。情勢不安定なため、予定引渡しを一二月後半に延期。また車輛搭載のボーリング器械を月曜日に見学に行く予定。優良な性能であ

れば今後の活動計画を考えて前向きに検討したい。近日中に病院のスタッフ（未定）をカーブルに送り、ユヌス・カヌニ（北部同盟内務相）とコンタクトをとる予定。今後彼らがPMSスタッフの活動の安全を保障するのであれば、在庫の小麦粉及び食用油をできるだけ早く配布する。

以上、現地から連絡があれば報告いたします。

（連岡）

一一月二四日（土）

本日（二四日）朝八時頃、PMSスタッフより連絡あり。

市内は変化なし。今日の朝よりハザラット・アリが私達の要請に応え、配下の警備員四人を派遣。結局は食事等の問題から三人になった。食糧倉庫はPMSスタッフで警備を行う。ローテーションを組み、昼間は四人、夜は三人の体制。また、水源確保計画関係のエンジニアがこれらの指揮下に入る。

現在ローガル州からバクティア州に至るまでの地域（ホースト州等を含む）の暫定ロヤ・シルガ（国民大会議）は、ザヒル・シャー王朝への支持を表明するために、王朝の旗を立て始めた。これにより、北部同盟との意見の違いが表明された。また、ヘラート州の統治者、イスマイル・ハーンもこれに賛同。

サロビでは盗賊勢力による通行者への略奪が横行しているとされているが、カーブルから来た人間の話では、襲われるのは、NGO関係の車輛、ジャーナリスト、程度の良い車、など現地で一般的ではないものに限られており、地方の輸送バス、タクシーは問題はないとのこと。

（連岡）

一一月二五日（日）

二五日現地時間五時ごろPMS医師より連絡あり。

——今朝、ハザラット・アリ配下の有力司令官（アリの兄弟）にPMS医師スタッフと水源確保

事業のスタッフが面会。「アリより車輛を返還するように連絡を受けているので今日中に返す」と告げられる。その後司令官の部下が赤のマツダトラックを事務所に無事送り届けてきた。赤のダットサンについては、今夜中か遅くても明朝に返還するとのこと。これによってアリ軍により過去接収された車輛三台のうち二台は返ってくる見込み。一台（白のダットサン）についてはジャラバード以外の場所で盗られたため、今のところは行き先は分かっていない。

また、アリの兄弟である司令官は、今後の食糧配布について作業の安全を保障すると約束。早期の配給を望む意向を示した。また、食糧倉庫の警備を強化することを約束し、明日より実行される予定。

市内の状況は、タリバン以前に割拠していたグループが再結成され、独自の治安維持を進めており、アリの勢力は其中最も強力なものになった。グループ数はおよそ九グループ。市郊外の検問所でアリの軍が武器を市内に持ち込むことを禁

止しているが、市内の武器については何も関与する方針はない様子なので、武器を携帯した者が町には当たり前のように歩いている。また、藤田さんからのレポートにあるように、最近、ソルフロッド郡、カマ地区周辺で悪性のマラリアが大発生しているとのこと。PMS医師スタッフが確認。

(蓮岡)

一月二六日(月)

昨日(二五日)の夕方、ジャララバードにいるPMS医師スタッフより連絡がありました(昨日からカーブルとジャララバードで食糧配給が再開できるかどうかを調べてもらっていました)。ジャララバードでは倉庫や事務所の警備は良くなっていますが、まだたくさんさんの司令官達がいいてジャララバードは危険な状態であると話しています。「サルシャヒ難民キャンプなどでの家族調査は今のところ難しい」との答えでした。

新州知事になったハジ・カディールとハザラッ

ト・アリに直接交渉するように病院から指示を受け昨日から行動していましたが、ハジ・カディールはドイツで開かれる会議に出席するために昨日からペシャワールに来ていて会えなかったそうです。ハザラット・アリは昨日ハジ・カディールを護衛してトルハムまで来たそうですがその後行き先が分かりません。ハザラット・アリ配下の司令官がパシャイー族でPMSスタッフの友人でもあり、PMSの活動について説明をじっくりしたら、警備は任せてくれと請け負ってくれました。PMS医師スタッフと話しているハジ・カディールもハザラット・アリもいないジャララバードはいつもよりたいへん不安定に感じました。

また今日、PMS医師スタッフの所へ病人が数名来たのですが、悪性マラリアの疑いのある人が多かったそうです。彼の家族が住んでいるカマ地区でも悪性マラリアが多く発生しています。ジャララバードの公的な病院にも大勢患者が来ているそうですが、薬剤がクロロキンしかなくて困っているそうです。私達の病院では数ヶ月前に、マラ

リアの流行を見越してアフガニスタン内に抗マリア薬を多量にストックしてあるので、明日はPMS医師スタッフが、ニングラハル州で移動診療が可能であるかどうかを調べてみるとのことです。明日の朝、シア副院長とイクラム事務長の方へ詳しく連絡が入ることになっています。カールルの進行状況も明日連絡が来ることになっています。

(藤田)

ジャララバードの治安が回復しつつあるとの知らせがあるが、今後一時の安定期は期待できるようなので以下を「緊急支援」として実施する見込み。

(1) ペシャワールとジャララバードに蓄積された食糧の配給(約三三〇〇トン)。

(2) 悪性マリア流行地への医療フィールドワーク。主にニングラハル州。詳細は中村が現地赶赴して決定する。

長期的には少数派の北部同盟系が東部で大きな

権力を把握することは無理であるから、何らかの動きが予想される。それでも地縁・血縁を基礎にする安定は必ず来るので、表向きの情報に惑わされず、ある程度の権力動向が明らかになった時点で以下を中長期見通しで実施する。内容は規模の上でも財政的にも充分に他の国連や諸外国のプロジェクトに匹敵できるものである。これを最良の復興計画モデルとして実行する。

(1) 先ずPMS病院の診療充実。基地機能の強化。

(2) アフガン東部で臨時診療を拡大。とくにマリア流行地。一時雇用で増員に対処する。

(3) 飲料水源確保事業の再編と再開。

(4) 可能な場所灌漑水路の着工。自給自足態勢を実現。

(5) 人員の管理と各プロジェクトの調整を円滑にするため、全計画をPMS病院の指揮下におき、各計画責任者は全体決定に従う。以上を目標とする。

(中村)

本日（二六日）朝 PMS 医師スタッフより報告あり。

食糧倉庫に警備の人員が配置される。サルシャヒー難民キャンプでの小麦配給を今日開始する。昨晚医師スタッフが有力司令官グル・カディンと配給作業の安全面を協議。警備その他人員の具体的な申し入れがあったので、カーブルから引き上げてからジャラバードで待機させていたトラック一台に積載された小麦八〇〇袋（一袋五〇キロ）を試験的に分配する予定。

サルシャヒー難民キャンプは戦火を逃れたカーブルからの避難民や、^{かほろ}早魃による難民が集中しており配給の必要が最も高い場所である。今回の量は全体としてはわずかな配給しかできないので、極貧者を地域の責任者によって選出してもらって小麦のみを配給する。今後作業の安全と警備の協力が確認されれば、倉庫に残るおよそ小麦三〇〇トン、食用油六四トンを早期のうちに配布する予

定。

（蓮岡）

一月二六日現地時間午後七時頃ジャラバードより連絡あり。

——本日、PMS 医師スタッフと現地スタッフ一六名（水源確保事業のエンジニア一四名と病院スタッフ二名）は食糧配給作業を、ジャラバード郊外の難民キャンプ「サルシャヒー・キャンプ」で行った。作業の前に数時間、調査グループによって対象者が選出され、カードを配り終えた後にトラックを運び作業を開始。作業にはハザラット・アリ配下の司令官によって派遣された二名を含む現地勢力のムジャヒディン（ゲリラ兵士）一四名が警備、誘導にあたった。

作業は昼ごろから始まり、配給カードを配っていない一般住民およそ一千人がトラックを取り囲み、食糧を無秩序に求めた為これの收拾に手間取り、また警備のムジャヒディンが非協力的であったために難航し、夕方の六時までかかって予定の

八〇〇袋より三〇〇袋少ない五〇〇袋を何とか配り終えた。残りの分については早朝より作業を開始する予定。

PMS医師スタッフは地元の司令官と作業後話し合い、今後の作業が順調に行かなければ中止する旨を話し、これに対し司令官は警備員の増強などを約束した。今日返還予定だった赤のダットサンは送られて来ず、これについて明日朝にPMS医師スタッフと水源確保事業スタッフ（アリと同郷）がアリの事務所に、担当の司令官を訪ねる予定。

ジャララバード市の状況は、あまり変わらず。昨夜、UNICEF（国連児童基金）と、名前は明らかではないが外国系のNGOの事務所が略奪され、事務所内にあった全てのものが持ち出されたとのこと。

（蓮岡）

一月二七日（火）

昨夜、日本より中村先生が無事到着されました。

お疲れの様子ですが、久しぶりに良く眠れたと仰っていました。

午後三時ごろ現地のPMS医師スタッフから連絡あり。

——朝一〇時ごろより始めた、サルシャヒー難民キャンプでの小麦粉の配布は、午後二時ごろ終了。昨日の残りであった小麦粉三〇〇袋（一袋五〇キロ）を全て配り終えた。作業は、昨日と同じように難航。周辺の各ゲリラ勢力からの干渉もあり、PMS医師スタッフは、統一した政権が確保されるまでは作業継続困難と判断した。現在ジャララバードの倉庫に保管されている小麦粉二八万一七〇〇キロと、食用油四万八六〇八リットルについては、明日よりグラエヌール地方とカマ地方の二つの場所に分けて配布を開始する。

配布は今後援助団体が食糧配布活動を開始する可能性を考え、短期的でより多くの家族に行き渡るように当初の一族分の配布量（小麦粉二〇〇キロ、食用油一六リットル、三ヶ月分に相当）を、小麦粉五〇キロ、食用油四リットル、（三週間分



子供を含めアフガニスタンでは親日感情が強い

相当)に変更する。今回の配布ではおよそ五六三四家族に行き渡り、余った食用油についても近日中に配布予定。

また、明後日より、情勢の安定したカーブルでも食糧配布を開始する。作業を進めるために明日ジャラバードから水源確保事業のスタッフ一二名がカーブルに向かう。今日返還予定だった赤のダットサンは届けられず、明日再度ハザラット・アリへ連絡をとり、早急な解決を求める。

今朝五時半頃、ペシャワールにまで聞こえるほどの爆音で、国境付近に大規模な空爆があった。被害は確認していない。

(蓮岡)

二月二九日(木)

一月一三日の北部同盟カーブル進駐以来、カーブルを除く全アフガニスタンで治安が急速に悪化。各国の救援団体、WFP(世界食糧計画)、国連組織は、カーブル市以外の地域で困難に直面している。厳冬を迎えてアフガニスタン全土が恐

るべき状態。

もともと飢餓避難民であふれていたカーブル市民のうち、相当のパシュトゥン系住民がラグマン州、ニングラハル州の東部に逃れてきている。

東の最大の町ジャラバードでは、一月一日から「防衛隊長」ハザラット・アリの率いる北部同盟軍民が闊歩し、私たちPMSとDACAAR（デンマーク救援会）以外の全ての外国団体、国連系の事務所が略奪された。治安は最悪である。

現在、圧倒的多数の地元パシュトゥン系住民たちは沈黙し、市民の大部分は周辺農村に家族を避難させて、バザールの店主たちは昼間だけ営業をしている。彼らが望みを託するのは「州知事」ハジ・カデイル。地元パシュトゥン出身の人望ある人物だが、武力を持たため、北部同盟の軍民を抑えることができないでいる。しかしPMS診療所のある地域や山村部は安全で、医療活動はもちろん、大部分の地域で水源確保事業は継続されている。

PMS活動の現況

(1) 医療活動……カーブルの五つの臨時診療所及びグラエヌール、グラエピーチ、ワマの各渓谷のPMS三診療所は平常どおり診療を続けている。

八月に予測された悪性マラリア流行が東部で現実のものとなり、かなりの犠牲者が続出、ベシャワールでも多くの子供たちの死亡が確認された（公営病院だけで死んだ子供の数が二〇〇名以上を記録。大半がジャラバードから治療にきたもの）。一月二十九日、PMS病院は二チームを急遽編成、薬品（マラリア薬約一万人分など）を満載して流行地に送った。最も犠牲者が多いと見られるシェイワ、カマ地区で二週間、フィールドワークが行われる。

(2) 食糧配給活動……著しい治安の悪化のため、コンボイを使うカーブルへの大量輸送が困難となった。しかしカーブル陥落まで八二

八・三トン、その後カーブル残留職員の手で一〇九トン、合計九三七・三トン（九万三七三〇人の一ヶ月半分）の小麦粉、食用油七万四二〇〇リットルが配給された。現在ペシャワールに約三千トン、ジャララバードに二八一・七トンの小麦粉が蓄積され、治安が回復すれば直ちに輸送できる。しかし、カーブル市内については間もなく国際救援が殺到すること、それまで餓死寸前の一割弱の最も貧窮する市民に一ヶ月半生存できる量を配給したので、当面の餓死の危機はカーブル市内については遠のいたと判断、今後の配給の主な対象を東部へ逃れてくる避難民に集中する予定。

(3) 水源確保事業……作業地の大半が北部の軍民の略奪から安全な農山村地域であるため、一部を除いて作業が継続されている。一月一六日現在、総作業地六六八、利用可能水源五六二（うち完成四六〇、カレーズ三〇）である。ドラエヌールで砂漠化が残ったブディアライ村では、川床のレベルに達するまで掘

り下げた灌漑用の大口径井戸が水を得たため、一月初めまでに本格的な緑化計画が期待される。

以上が現状であるが、無政府状態がいつまで続くかによって、「いのちの基金」第二期計画の実施時期が左右される。しかし、たとえ無政府状態でも、ある程度の支援は可能である。現状の支援を継続しながら、ペシャワールのPMS基地病院を強化、情勢を冷静に見て本格的な第二期計画の策定を行う。ただし、

1. 農村の自給自足態勢を確立すること
2. 東部の恵まれぬ地域、アフガン国内の飢餓避難民に集中することが大方針である。

(中村)

二月一日(土)

ペシャワールからの状況報告。

一月三〇日午前、ジャララバード周辺カマ地

一二月三日（月）

区を中心にした移動診療を行う医療チーム八名（医師三名、看護検査技師四名、事務一名）がジャララバードに向けて出発した。チームは一般診療をしつつ現地で流行している悪性マラリアの治療を進める。

同日昼頃、国境トルハムに到着したが、国境は鉄条網が配置され完全に閉まっており、アフガンとパキスタンとで開門規定の話し合いがされている最中だった。戦時下でも通過していた輸送トラックまでもが国境をはさみ双方五〇台以上立ち往生しており、大量の住民達が足止めされていた。医療チームは大量の薬を持ってきており、越境が困難なためペシャワールに引き返した。

一二月一日朝、国境が開いたという連絡が入り、医療チームは再度出発。荷物の持ち込み量が限られているため、薬を分配しポケットに入れ越境を試みる。

（蓮岡）

昨日（二日）午前中、PMS派遣職員の医師スタッフ、カーブルより連絡あり。

——食糧配給は遅滞なく進行。五ヶ所の診療所も平生どおり運営中。市内の治安は徐々に回復中のこと。ジャララバードの通信は途絶えているが、ジア副院長の率いる医療チーム（悪性マラリア流行地へのフィールドワーク）は、一日足止めを食らったが、同日無事にトルハム国境を越えた。二つのチームは最もマラリアが多いクナール河沿岸、ジャララバード周辺の広範な農村地帯で二週間にわたって活動する。

なお、ジャララバードの権力は流動的。治安の回復はなお時間を要すると見られる。ジャララバード周辺の爆撃により、現在まで死亡者二二〇名がPMS職員によって確認されており、公式発表とは異なる。空爆はなお続行している。ジャララバードは無法地帯に近い状態だが、正確な報道

は困難。一部のジャーナリストたちは、往復五千ドルの「護衛料」を払って市内までは行けるが、郊外の取材はほとんど不可能。

(中村)

カーブルで食糧配布担当のPMS医師スタッフより連絡あり。

——カーブルでの調査を終わり食糧配布を三日より開始する。今回配布するのは、前回までの輸送でカーブルの倉庫に貯蔵されていた小麦粉一〇万九一五〇キロと食用油一万六一九二リットル、およそ二二〇〇家族分（小麦粉五〇キロ、食用油四リットル、一家族一〇人の三週間分）。余った食用油は今後の配布に回す。市内は正常。

(蓮岡)

一二月四日（火）

中村先生。

我々のジャラバードのチームは一二月二日か

ら食糧配給を再開し、一二月五日までにはジャラバード保管分の配給を完了します。グラエヌール、ソルフロッド、他五地区の計七ヶ所で配給しました。配給作業は全てジア副院長の監督の下に行われています。

ジャラバードの最近の状況は非常に平穩で、ハザラット・アリ配下の者たちも協力してくれています。カーブルでの配給も一二月二日から再開しました。

ジア副院長は一二月六日カーブルに行き、ペシャワールに戻って更に協議することになっています。またジア副院長は、イード（断食明けの大祭）の後にはペシャワールからの配給用食糧の輸送を再開できるのではないかと期待しています。

マリア巡回診療チームはシェイワで六日間、カマ地区で六日間活動しており、安全上の理由から一緒に活動しています。

今日ユニセフ事務所、ヌーリスタン州における実施済み及び実施の必要がある医療活動についての会議があり、医師スタッフ一人が出席しまし

た。

全般的にアフガニスタンの状況はよくなっており、さらに改善されて、我々の配給活動を再開できるように思っています。

(PMS事務長イクラム・カーン)

二月五日(水)

一二月四日ジャラバードより連絡あり。

——ジャラバードでの活動はほぼ以前の計画通り。一二月二日より、ソルフロッド郡、カマ地区、ドラエヌール地区、ホギヤニ郡、サルシャヒー難民キャンプで食糧配布を開始。五日終了予定。配布量は二二〇家族分(小麦粉五〇キロ、食用油四リットル。一家族一〇人の約一ヶ月分)。移動診療チームもカマ地方で診療開始。現地の情勢は変化なし。

(蓮岡)

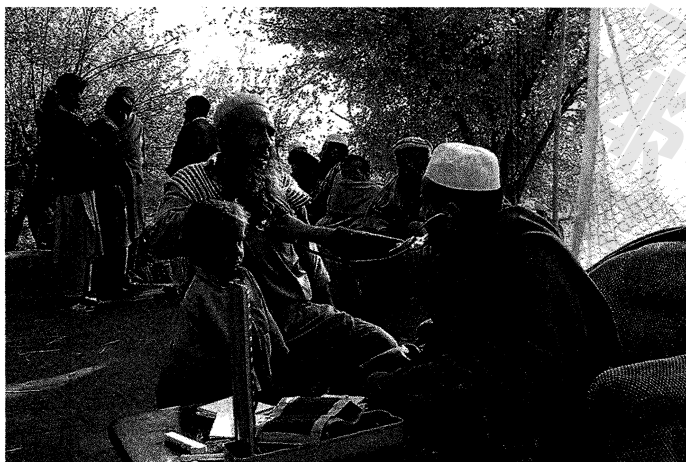
二月六日(木)

ジャラバードで食糧配給を開始して四日目の今日(六日)、ジャラバードにストックしてあった食糧の全てを配給し終わった、と配給結果と一緒に連絡が入りました(詳しいことは事務長や蓮岡さんが報告しました)。

タリバン後にジャラバードに押し寄せた権力者達への、水源確保事業や病院のスタッフのためみない交渉の努力には驚きます。

現在ジャラバードの治安を司っているハザラット・アリと同郷でパシャイー語が話せるということで、昨日ペシャワールの病院からジャラバードへ送ったPMSスタッフがいますが、PMSの食糧や車輛を持っていこうとした者は殆ど彼の村の知り合いや親戚でした。

ペシャワール会と一三年関わりを持つ彼は、ドラエヌールや他のクリニックの準備時から関わっていたので、なぜ彼の村のような誰も訪ねてこな



マラリアの巡回診療

いような辺鄙な所に中村医師がクリニックを開いたかなど、ペシャワール会の活動のことを地元のパシャイー語で説明して回り、最後には、こんな状態が続くならば日本側はクリニックを閉めてしまおうとまで話したそうです。ジャラバードに來ているパシャイー族の人は「それは困る」と言っただけです。いつもクリニックを開く時に「いい仕事をしていれば地元住民が自分達でクリニックやスタッフを守るようになる」と口癖のように話しておられた中村医師の言葉を思い出します。

昨日ジャラバードから病院へ帰って来たスタッフは「他の機関は全ての物が略奪されたにもかかわらず、私達の事務所は何も取られていない。ハザラット・アリに一時使われていた車輛でさえ帰ってきた。今では数人の地元リーダーが、自分にも何かあなた達の仕事を手伝わしてくれ、と言っているくらいだ」と話しました。

食糧配給やマラリア診療の写真が届き、今日イクラムラ事務長と一緒に見ました。白衣を着てい



カーブル臨時診療所にて（2001年）

ないドクターや検査技師、看護師ばかりなので、顕微鏡や薬品、聴診器が近くにないと患者さんみたいだ、と笑いましたが、治安の安定していないアフガニスタンの今の状況の中で、このスタッフ達は何もない所で診療をして、食べ物を持たない人達に食糧を届けているどの姿を見ても胸が詰まる思いがします。

ジア副院長は明日カーブルへ行き状況を観察した後ペシャワールへ戻る予定です。再度サロビあたりで判別不明の何者かに襲われた人達がいるというニュースも入っていて、心配はつきません。またお便りします。

（藤田）

二月七日（金）

本日午後三時頃ジャララバードより連絡あり。

——現地での倉庫に残っていた物資による食糧配布は終了。余った食用油は次回の小麦粉の到着を待って一緒に配布する予定。警察権を担当しているハザラット・アリは、暴力行為や略奪行為が

あったものに対しては、それが司令官でも厳罰を執行しており、市内の治安は安定してきている。

市内は、農村部から空爆を逃れて避難してきた農民達で溢れており、アルカイダが潜伏しているとされるトラボラ攻略が開始される噂で、その数は次第に増えてきている。また、農村部では未だに一部ゲリラグループによる略奪が続いており、その影響もある。ジャララバード市内ではジャーナリスト以外に国連や、その他NGOの外国人職員も一部が帰ってきているが、具体的な食糧配布などの作業は確認されていない。

私たちPMSの食糧配布及び一部の水源確保事業は二一日以降、イード（断食明けの大祭）明けを待つて開始する予定。

（運岡）

一二月八日（土）

カーブルで勤務している看護師より電話がありました。

アメリカの空爆が始まってしばらく経った頃に、

クリニックのドクターがエスケープしていなくなった、その後採用された医者が一日勤務しただけでいなくなったのでたいへん困っている、患者はいつものように来院してくるので自分が症状を聞いて薬を処方している状態、カーブルはとても平和になっているので誰か送って欲しい、と訴えました。

その数日前にはやはりカーブルで働いているもう一人の看護師より手紙が届き、それにもカーブルは安全であると書いてありましたが、「Up to now inshallah we are fine and doing well and Sister Don't worry about our life.（今までのところ神様のおかげで、私たちは元気で順調にやっています。だからシスター、私たちの命のことは心配しないでください）」とも書いてあり胸が詰まってしまいました。

また、二週間の休暇を取りカーブルにいる家族の所へ帰っていた私達の家の門衛が一月二日に帰って来ましたが、彼も「カーブルは大丈夫だった。スタッフや住民がもう食糧配給はしない

のだろうかと話していた」と言っていました。

他の情報なども考え合わせた結果、一月二八日PMS病院からドクターと看護師一名ずつをカーブルへ送ることになりました。以前北部同盟がカーブルへ来るぎりぎりまで食糧配給作業をしていたジャララバードの水源確保事業スタッフが一二人カーブルへ行きました。カーブルに残っていた食糧は全部配給し終えたという報告が入っています。

北部同盟がカーブルに来た時ジャララバードへ引き返して以来、ジャララバードの事務所に詰めているドクター・シャラフが、一月二五日の連絡で「カマ地区とジャララバードで患者が来て診察をしたが悪性マラリアの疑いのある人が多いように感じる」と報告をしました。今年の夏あたりからドラエヌールやドラエピーチ・クリニクの治療ではマラリアの件数が増えて来ていました。六月、ドラエヌール・クリニクではマラリアの検査数が七一六件、うち抗マラリア薬を使った患者数は四九七名、八月は検査数八一〇件、陽性者

約三〇〇名、治療数三五〇名、一月は検査数八四〇件、陽性者三〇〇名でした。PMS病院では、中村医師の指示で、七月に爆発的に流行した時に早急に対処できるように、抗マラリア薬を約五千名分購入しました。ドクター・シャラフの報告と、中村医師のゴーサインでPMS病院では一斉に準備に取り掛かりました。

「いのちの基金」からは、マラリア治療薬では一番高価なハルファンという薬品を大人二千人分購入させて貰いました。この薬は三回服用するだけなので簡単に治療できますが、高価なので、なかなか一般の人は買えない薬です。中村医師は弱った子供や重症の人は他の抗マラリア薬では副作用がきつくて服用を途中でやめてしまうので、そんな患者さんに使用するようにと、マラリア医療チームのドクター達へ指示されました。PMSのスタッフは毎月のフィールドワークに慣れているせい、今回はあつという間に準備も整い、「すぐに医療チームをジャララバードへ送れ」との指示を受けて三日目早朝には送り出すことがで

きました。

一昨日（十一月六日）の報告によると、カマ地区での三日間の診療では、マラリアの患者さんは思ったより少なく、ほっとしましたが、それでも三日間で約八〇〇名の診療をしていました。人手不足の為、医師、検査技師、看護師それぞれ一名で構成した医療チームだったので、薬品は誰が渡しているのだろうか、受付はどうしているのだろうか、押しかける人々をどのように整理しているのだろうかといろいろ心配になってきました。

でも、このマラリア診療チームとジャラバードへ一緒に行って、数日行動を共にして帰ってきた薬局長と、彼が持ってきてくれた写真を見ながら、その説明を聞いて納得しました。村の住民が押しかける人々を整理し、字の書ける人が受付をして、さらにスタッフの安全は自分達を守るから診療を続けて欲しいと依頼し、実際に村の人たちが気持ちよく手伝ってくれていたそうです。カマ地区での診療は七日まで行い、八日からはシェイワ地区を始めました。シェイワは一九九三年にも

マラリアが流行した所です。

ジャラバード市内は日に日に落ち着きを取り戻し、タリバンが撤退して北部同盟が入った後、地方へ避難していた住民は帰ってきていること、米国によるトラボラへの空爆や、一二月五日米兵と地元兵がトラボラ付近で地上戦を始めた後、ジャラバードは避難民であふれていること、防衛隊長のハザラット・アリが三日前、自分で泥棒を捕まえ刑務所に収容したこと、また治安を乱す者が自分の配下の者であろうと厳しく処罰したり刑務所に入れたこと、それを見た住民や他の司令官達が恐れ静かになって行ったこと、夜間にアラブ人が車のライトを消した車輛で市内に來たりしているが誰も何のために来ているのかわからないので、夜間はいへん危険だと地元の人は言っていること、国連やNGOが活動を始めているが外国人は居らず、外国人はジャーナリストのみということ等の報告もありました。

パキスタンは一二月一七、一八、一九日がイード（断食明けの大祭）になりました。アフガニス

タンの私達のクリニックに勤務する人達も殆ど家族の元へ帰るので、一週間ほど全クリニックを休みにします。

今回薬局長は、クリニックから一二名のスタッフを無事に連れ帰らなくてはなりません。まずカーブルへ行きアフガン内クリニックの薬品を三ヶ月分購入した後、クナールの山岳地域のクリニックに行く予定です。

二月二日は、今年四月から再開していたパキスタン側のチトラール地方にあるラシュト・クリニックの今年最後のチームがペシャワールへ戻ってきました。地元出身の看護師も、八ヶ月ぶりに会うとすっかり山の人になつていました。来年の春にクリニックを再開するまではまた病院でトレーニングに励んでもらいます。

今日（八日）は、食糧配給作業やハザラット・アリ防衛隊長との交渉のためジャララバードへ行っていた看護師達も任務を終えて病院へ帰ってきました。ジャララバードにストックしてあった食糧の配給が終わりましたが、少し状況を観察し

てイード後に再開しようということになりました。シャラフ医師はこれからの作業のために、水源確保事業のスタッフとともに周辺の様子を調べて病院へ報告する必要がある、ジャララバードに残りました。

ジア副院長は昨日カーブルへ行きましたが、カーブルの食糧配給は六日に終了したと連絡が入りました。クリニックは患者数が増えてきて一〇〇名以上を診ていて呼吸器疾患が多い、また空爆が続いているときになくなったドクターの代わりを雇った、今カーブルは平穏な状態が続いている、とのこと。ジア副院長も数日内にはペシャワールへ戻る予定です。また報告をします。マラリア診療チームもイード前の一三日には一時ペシャワールへ戻ってくる予定です。

どうかカーブルの者はカーブルへ、ペシャワールの者はペシャワールへ、全スタッフが無事に故郷へ帰り、イードのお祝いを家族と一緒に迎えられるようにお祈りください。

（藤田）

一二月九日（日）

中村先生、お元気ですか。私達は、何人かが軽い風邪気味ですが、元気にしております。

イクラムラ事務長の風邪が長い間なかなか完治せずに、一昨日から発熱しています。あの気性なのでたくさん着込んで勤務していますが少し心配です。

さて、マラリア医療チームの件です。カマ地区ではこちらが想像していたよりマラリア患者の数は少なかったです。昨日からシェイワ地区を始めましたが、マラリアは六件で、うち熱帯熱マラリア四件、三日熱マラリア二件でした。七日間の総診療数は一八七四人です。赤痢、回虫、呼吸器疾患が多く、また腸チフス、肝炎それぞれ一件、またA F B検査ができないのはつきり診断はできないが、長期間のせきを訴える人が多く、診療にあたっているドクターは結核だろうと話しています。薬品が足りなくなると思われますが、他の三

クリニックの分がまだドラエヌール診療所にありますので、不足したらそれを一時的に使用して、後で「いのちの基金」から買い足したいと考えています。

とにかく医療に飢えているように、患者さんが詰め掛けているようです。自分の想像を恐ろしく感じますが、もしかしたらアフガニスタン全土がいつもこんな状態なのではなどと思えてきます。

マラリア患者は少ないのですが、このままイード（断食明けの大祭）前までは診療を続けることになりました。二チームで各村を一日ずつ巡回診療しています。行く先々で住民にとっても喜ばれて、みんな一生懸命頑張っています。イード後はどうするかをご連絡下さい。ジア副院長が明日か明後日にはカーブルから帰ってきますので、一緒に中村先生に連絡をとりたいと思っています。

別の報告に書きましたが、シャラフ医師はイード後に再開する食糧配給の為に、水源確保事業のスタッフと一緒にそれまでのニングラハル州やラグマン州の状況を調べて、病院へ報告するために

ジャララバードに残ることになりました。(藤田)

一二月一〇日(月)

本日(一〇日)朝八時頃ジャララバードより連絡あり。

——現在のところイード(断食明けの大祭)が明けるまで食糧計画、水源確保事業とも作業中止その他の既存の診療所及びカマ地区マラリア移動診療は続行中。

市内の治安は、ハザラット・アリ配下兵士による連日の街頭パトロールで以前に増して安定してきている。ロダット、アチン、ガンティー郡の暫定的統治機構と会談を行った。郡内の活動における作業上の安全を保障すると文章化、また、早期活動再開の要請を受ける。ロダット郡のPMSの井戸で、灌漑用ポンプの装着に成功。住民達が共同出費でポンプを購入し、独自に配分している。今後の灌漑用の水源を確保するモデルとなる。

(蓮岡)

一二月一五日(土)

十二月十三日は、アフガニスタンからカーブル・クリニック勤務の者や食糧配給作業を終えた者、ダラエヌール、ダラエピーチ、ワマの各クリニック、そしてニングラハル州へ派遣していたマラリア診療チームのスタッフ達が無事に帰ってきました。以下はカーブルから帰ってきたドクターの報告です。

カーブルの五つの診療所のうち、半公営(スタッフは政府職員。タリバンが財政困難のためPMSが給料と薬品を支給して診療活動を続行していた)だった二つのクリニック(チェルストン、ラフマンミナ)ではタリバンの医師一名が北部同盟の医師に交代させられただけで、他のスタッフはそのまま活動を続けている。最近では五つの各クリニックの外来数が増加していて、どのクリニックも一日一〇〇名以上の診療をしている。カーブルではロシア、フランス、イタリア、イン



水汲みは子供たちの大切な仕事

ド、トルコ、カナダがそれぞれ大規模に医療活動を準備中もしくは開始している。他の機関の援助物資がカーブルへ輸送され始めておりジャラバード・カーブル間の危険は遠のき護衛が付かなくても無事通過しており、カーブルではWFP（世界食糧計画）やNGOの食糧配給も始まっている。

ジャラバードでPMSのマラリア診療チームと行動を共にし一三日にペシャワールへ帰って来た日本人の方の話では、PMSのマラリア診療二グループはシェイワ地区で一日に約一二〇人、一五〇人診療をしていた、マラリアの患者は少なかった、とのことでした。

サルシャヒー難民キャンプについて。避難民の五割はカーブルとバグラムからの避難民であり、彼らは新政権が安定し、寒さが和らぐまではキャンプに留まるつもりであると話している、PMS以外の食糧配給は行われていない、テントは何処かの国から一〇〇張りほど寄付があったが、全く不足しており手作りのテントで生活している避難

民が多い。医療状況は、数人の医者が診療に来て
いるが、約二万一千人の避難民に対しては足りな
い（キャンプの責任者の話）、また、このキャン
プの横を多くの支援物資の輸送車が通り過ぎて行
き、まるでこのキャンプのことは忘れられてい
るような感じがした。

ジャララバードには一〇〇人以上の外国人報道
関係者がいた、報道関係者以外の外国人は見かけ
なかった。カーブルへの輸送は可能、支援物資が
ジャララバードからカーブルへ輸送されるのを見
た。サルシャヒー難民キャンプ以外の地区は表面
的には落ちていないように見えたが、早魃^{かんばち}がひ
どく作物の穫^とれていない地域では危険な感じを受
けた。

イード（断食明けの大祭）後の二二日、アフガ
ニスタンに暫定政権が樹立されるまで食糧配給計
画と水源確保活動はじつと様子を観察している所
です。

アフガニスタン内のクリニックは、通常と変わ
らず診療を続けていて、イード休暇が終わり次第、

診療チームは各クリニックへ向かいます。明日一
六日（日）からイード休暇が始まります。

今日は日本の師走を思わせるような忙しさでし
たが、スタッフ達は皆嬉しそうで、就業後お互い
に抱擁し合いながらイードの祝いとしばらくの別
れの挨拶を交わしていました。「イードムバー
ラック（イードおめでとう）」と口頭でしか言え
ず握手もできないこんな時は、私も男性だったら
よかったな、と感じる一瞬です。（藤田）

一二月一七日（月）

日本人ワーカーへ。

イードおめでとう、と言いたところですが、
どうも祝いの気分にはなれません。現地情勢は相対
的な一時安定に入りつつあります。

来年一月を期して大攻勢が始まります。空爆下
の食糧配給、医療活動ご苦労さまでした。小生の
不在の中、日本人ワーカーはもちろん、PMSス
タッフ全員よく奮戦され、感謝と共に感銘に堪え

ません。

きつと大勢の人々のいのちが救われたでしょうが、この事業で実は日本側の募金者たちも救われたのです。荒廃した世相の中で一縷の願いを私たちの仕事に託し、寄せられた募金総額は五億円に達しつつあります。

私たちは、宿願であったアフガン東部の緑の平和な村落回復を目指し、昨年よりも更に猛烈な活動開始を以って新年を迎えたいと思います。

修正がもちろん必要ですが、第二期の原案を送ります。この計画にペシャワール会と小生の命運をかけます。

(中村)

二月二〇日(木)

二月一六日から始まったイード休みが終わり、病院は通常どおり開始される。

ジア副院長がハザラット・アリのペシャワール事務所と連絡を取ったところ、入国に関しては警備の面も全く問題ないことを説明される。ジア副

院長の意見では、二二日にカルザイ臨時政権が樹立された後、最初の政策とされている武器の回収が行われる予定だが、その作業に反対して地方勢力が衝突を起こす可能性があるので、二二日から数日間様子を見てその後に現地に行った方が安全に今後の活動ができるとのこと。それまでに現地では情報収集をできる限り行わせる予定。(蓮岡)

二月二二日に、ジア副院長は、ドラエヌール、ドラエピーチ、ワマの各クリニクの交代要員と一緒にアフガニスタンへ入ります。直接カーブルへ行き、二二日に暫定政権が樹立されてからのカーブルのクリニクの登録を済ませてからジャラバードへ戻り、ニングラハル州の「プランニング・ミニストリー(開発省)」にPMSの水源地確保事業、食糧配給計画、医療活動の届出をする予定です。また、治安局で日本人ワーカーの活動許可を取り、公式に安全を確認してペシャワールへ連絡することになっています。連絡を受けた後、

日本人ワーカーと食糧計画に従事する病院のスタッフをジャララバードへ送ります。

食糧計画（いのちの基金）については、食糧配給チームが家族調査を終えペシャワールへ連絡があつてから輸送を開始します。ペシャワールからは一日か二日おきの輸送になるだろうと話しています。政権が落ち着くまではジャララバードに食糧をストックせずペシャワールから輸送されたトラックをそのまま配給地に誘導して配給する予定です。明日、最終的な打ち合わせをします。

イクラムラ事務長は、ペシャワールからの食糧輸送で忙しくなる前の二月二二日から二三日、パキスタン北西辺境州山岳地域のコーヒスタンのクリニックを再開するための手続きに行く予定です。

（藤田）